

第 2 章

主 要 施 策 の 概 要

1 子どもが元気に育ち、豊かな人間力を育む環境づくり

1 健康・発育の支援

1 園 保育所等訪問支援事業【計画】（福祉費）

障害者施設課 1.7百万円

子ども発達センター（児童発達支援センター）の職員が保育園や幼稚園を訪問し、社会性や集団参加が課題となる児童に対して、集団参加等に関する指導など、当該施設の職員等と連携し、適切な支援を行いました。

2 園 産後ケア体制の整備【計画】【新規】（福祉費）

青戸保健センター・子ども家庭支援課 1.3百万円

産後の健康管理や授乳などに不安を抱える母子に対して、心身のケアや授乳指導、育児支援を行う産後ケア事業（宿泊ケア、乳房ケア、デイケア）を実施することで、安心して子育てができるよう支援しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

3 園 妊婦歯科健康診査【計画】（衛生費）

健康づくり課 6百万円

妊娠による身体や生活環境の変化により、妊娠中は歯科疾患が増加することが多く、また、生まれてくる子どもの口腔環境は母親の口腔環境の影響を大きく受けるため、妊婦を対象とした歯科健康診査と保健指導を実施しました。

受診者数 1,074人

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

4 園 新生児聴覚検査費助成【新規】（福祉費）

青戸保健センター・子ども家庭支援課 9百万円

先天性聴覚障害のある子どもを早期に発見し、適切な療育につなげるため、新生児を対象とした聴覚検査の費用の一部を助成しました。

5 園 かつしか子ども応援事業【計画】【新規】（福祉費）

子ども応援課 1.3百万円

家庭の経済状況や養育環境など様々な事情を有する子どもが、家庭や学校以外で安心して過ごすことができる場を提供しました。

また、保護者の子育ての悩み・不安に応じる養育支援や、学習等の意欲を喚起する支援を行いました。また、高校生世代の中途退学未然防止のための支援のほか中学卒業後進路未決定者や高校中退者の学び直し、就学支援などを引き続き行います。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

6 園 若者支援体制の整備【計画】【新規】（福祉費）

子ども応援課 4.9百万円

長期にわたり就学・就労等の社会参加ができずにひきこもり状態等にある若者や、人間関係・仕事・孤独・将来への不安など、様々な悩みを持つ若者を支援するため、相談窓口を設置するとともに、本人又はその家族等からの相談を受け、関係機関と連携して対応しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

7 園 子ども・若者活動団体支援【計画】【新規】（福祉費）

子ども応援課 6百万円

社会生活を営む上で、様々な困難や事情を有する区内の子ども・若者（おおむね39歳まで）を対象に支援を行う地域活動団体に対し、活動の立上げに係る経費や運営経費の一部を補助しました。また、引き続き、地域活動団体との連携を深め、子ども・若者の自立や健やかな育成を図ります。

(1) 事業立上げに対する助成 2件

補助率 10/10

補助限度額 20万円

(2) 活動費に対する助成

①日常的な支援活動 17件

補助率 2/3

補助限度額 月1回以上実施 30万円/1団体

週1回以上実施 60万円/1団体

②子ども・若者支援等に資するイベント事業 1件

補助率 2/3

補助限度額 60万円/1団体

8 園 児童相談体制の強化【計画】【新規】（福祉費）

児童相談所設置準備担当課 9百万円

児童虐待や養育困難をはじめとした子どもと家庭の問題に対して、関係機関とのネットワークを更に深化させ、適切な子育てサービスをより円滑に提供する体制を構築しています。

また、5年度を目標に児童相談所を設置し、児童相談体制の強化を図ります。

スケジュール

令和元年度 基本構想策定・基本計画検討

令和2年度 基本計画策定、基本設計

令和3～4年度 実施設計、建設工事

令和5年度 開設

9 国 児童発達支援センターの整備支援【計画】（福祉費）

障害者施設課 15百万円

増加する療育ニーズに対応するため、児童発達支援センターを整備する社会福祉法人に対して施設整備費の一部を助成します。

元年度は、（仮称）高砂児童発達支援センターの整備を支援しました。

所在地	高砂三丁目26番
サービス内容	児童発達支援 40人 障害児相談支援、保育所等訪問支援
施設規模	延床面積 約546㎡ 木造 2階建
開設予定	令和2年10月
運営者	社会福祉法人 常盤会

2 子育て環境の充実（重要プロジェクト）

1 国 保育所の設置【計画】（福祉費）

子育て施設整備担当課 1,578百万円

- (1) かつしか堀切保育園 分園（堀切七丁目5番15号）
令和2年3月開設、定員51名、社会福祉法人葛飾会が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・障害児保育
- (2) キッズスマイル葛飾東水元（東水元一丁目18番20号）
令和2年4月開設、定員73名、株式会社Kids Smile Projectが運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (3) 木下の保育園青砥第2（青戸三丁目33番7号）
令和2年4月開設、定員68名、株式会社木下の保育が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (4) 京進の保育園ビーフェア京成小岩（鎌倉一丁目4番15号）
令和2年4月開設、定員60名、ビーフェア株式会社が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・一時保育
- (5) 京進の保育園ビーフェア堀切菖蒲園（堀切四丁目49番6号）
令和2年4月開設、定員60名、ビーフェア株式会社が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (6) このえ西亀有保育園（西亀有四丁目18番16号）
令和2年4月開設、定員73名、株式会社なないろが運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・子育てひろば
- (7) まなびの森保育園金町（金町二丁目3番16号）
令和2年4月開設、定員60名、株式会社こどもの森が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (8) 南水元いろは保育園（南水元二丁目25番6号）
令和2年4月開設、定員81名、社会福祉法人アストリーが運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・子育てひろば

- (9) ミアヘルサ保育園ひびき亀有（亀有四丁目28番10号）
令和2年4月開設、定員60名、ミアヘルサ株式会社が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (10) ぽけっとランド亀有保育園（亀有三丁目31番4号）
令和2年4月開設、定員66名、学校法人三幸学園が運営
保育内容 11時間保育・1時間30分延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
障害児保育

2 園 保育所の建替え（福祉費）

子育て施設整備担当課 574百万円

- (1) 黎明保育園（堀切三丁目30番12号）
令和元年11月開設、定員105名、社会福祉法人雲柱社が運営
保育内容 11時間保育・1時間15分延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
障害児保育・一時保育
- (2) 東中川保育園（高砂六丁目4番15号）
令和2年3月開設、定員86名、社会福祉法人東中川会が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・
一時保育・子育てひろば
- (3) 金町保育園（増築）（東金町三丁目36番15号）
令和2年4月開設、定員205名、社会福祉法人大龍会が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・
一時保育・子育てひろば
- (4) 奥戸保育園（奥戸六丁目24番）
令和3年3月開設予定、定員102名、宗教法人妙法寺が運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育

3 園 「子育て支援施設の整備方針」に基づく施設整備（福祉費）

子育て施設整備担当課・保育課 1,386百万円

- (1) ひのか保育園（旧新小岩保育園）（新小岩三丁目13番23号）
令和2年4月開設、定員166名
（公設公営→民設民営）
社会福祉法人清遊の家がひのか保育園として整備・運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・
一時保育・子育てひろば
- (2) （仮称）東立石四丁目保育園（東立石四丁目45番）
令和3年4月開設予定、定員165名（現在の定員153名）
（公設公営→民設民営）
社会福祉法人徳育会が（仮称）東立石四丁目保育園として整備・運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・
（予定）一時保育・子育てひろば
- (3) 西亀有保育園（現園舎 西亀有三丁目31番9号、仮園舎予定地 西亀有一丁目18番
※都から借受予定）

令和5年4月開設予定、定員未定（現在の定員118名）

（公設公営→民設民営）

運営事業者は公募にて選定予定

保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）

（4）子ども未来プラザ鎌倉

南鎌倉保育園（鎌倉一丁目7番3号）

令和2年1月開設、定員86名（令和2年4月より新定員113名）

区が整備・運営

保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育

（5）（仮称）子ども未来プラザ西新小岩

上平井保育園（現園舎 西新小岩四丁目33番10号、新園舎 西新小岩四丁目33番）

令和4年度中開設予定、定員未定（現在の定員156名）

区が整備・運営

保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）

併設施設 （仮称）新小岩地域活動センター、新小岩保健センター

（6）（仮称）子ども未来プラザ小菅

小菅保育園（現園舎 小菅二丁目19番1号、新園舎 小菅二丁目19番）

開設時期未定、定員未定（現在の定員106名）

区が整備・運営

保育内容 11時間保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）

（7）（仮称）子ども未来プラザ東四つ木

渋江保育園（現園舎 東四つ木二丁目15番11号、新園舎 東四つ木二丁目15番）

令和5年度中開設予定、定員未定（現在の定員122名）

区が整備・運営

保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）

4 園 通年型預かり保育の実施【計画】（福祉費）

子育て支援課 156百万円

私立幼稚園及び認定こども園が実施している預かり保育において、保育時間の延長や3季休業中の保育拡大、定期的な預かりを行いました。それにより、地域型保育事業の連携施設として、主に小規模保育事業所及び家庭的保育事業所に通園する児童の卒園後の受け入れ先のひとつとするとともに、保育を必要とする方の選択の幅を広げました。

実施園 14園

5 園 保育人材の確保【計画】【新規】（福祉費）

育成課・子育て支援課 11百万円

保育人材の確保と定着のため、就職支援コーディネーターを中心に、私立保育施設と連携して潜在保育士等に向けた研修や就職相談会等を実施するとともに、私立保育施設における

保育の質の確保に向けた取組を支援しました。

また、奨学金を返済している保育士へ返済金の助成を行いました。

対象者数 111人

3 子育て支援サービスの充実

1 園ゆりかご葛飾【計画】（福祉費）

青戸保健センター・育成課・子ども家庭支援課 80百万円

出産や育児に関する不安を解消するため、身近な支援拠点で妊娠から就学前の子育て期間を通じて切れ目ない相談支援を行うとともに、保健師や助産師による産前・産後の訪問支援や妊娠子育て応援券を配付しました。

また、妊婦や、出産後の保護者とその乳幼児の心身の健康の保持・増進を図るための教室、講座等も実施しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

2 園子育てひろばの設置【計画】（福祉費）

子育て施設整備担当課 25百万円

- (1) このえ西亀有保育園（西亀有四丁目18番16号）
令和2年4月開設、株式会社なないろが運営
- (2) ひのか保育園（新小岩三丁目13番23号）
令和2年4月開設、社会福祉法人清遊の家が運営
- (3) 南水元いろは保育園（南水元二丁目25番6号）
令和2年4月開設、社会福祉法人アストリーが運営
- (4) 東中川保育園（高砂六丁目4番15号）
令和2年4月開設、社会福祉法人東中川会が運営
- (5) （仮称）東立石四丁目保育園（東立石四丁目45番）
令和3年4月開設予定、社会福祉法人徳育会が運営

3 園一時保育の設置【計画】（福祉費）

子育て施設整備担当課 18百万円

- (1) 京進の保育園ビーフェア京成小岩（鎌倉一丁目4番15号）
令和2年4月開設、定員3名、ビーフェア株式会社が運営
- (2) ひのか保育園（新小岩三丁目13番23号）
令和2年4月開設、定員10名、社会福祉法人清遊の家が運営
- (3) 東中川保育園（高砂六丁目4番15号）
令和2年4月開設、定員10名、社会福祉法人東中川会が運営
- (4) （仮称）東立石四丁目保育園（東立石四丁目45番）
令和3年4月開設予定、定員10名、社会福祉法人徳育会が運営

4 国 学校施設を活用した放課後子ども支援事業【計画】（教育費）

放課後支援課 247百万円

全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる環境を各小学校内に整備します。

元年度は、渋江小学校内への学童保育クラブの整備に向けた調査・設計の委託を行いました。

また、小学校3校において、夏季休業日に児童が自主的に活動する場を提供し、見守りを行う新たな取組を試行実施しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

4 仕事と生活の調和の推進

1 国 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）応援事業【計画】（総務費）

人権推進課 1.0百万円

区民一人一人に対し、それぞれの希望に応じて「仕事」と子育て・介護・地域活動などといった「仕事以外の生活」の調和（ワーク・ライフ・バランス）が図られるよう、区民・企業に向けた支援事業や、各種講座・セミナーの開催等を行いました。

- | | | |
|--------------|------------------------|--------|
| (1) 講座・講演会 | 企業向け講座・講演会 | 1回 |
| | 区民向け講座・講演会 | 2回 |
| (2) 情報提供・啓発 | 産業フェア出展 | 1回 |
| (3) 企業への支援 | ワーク・ライフ・バランス支援アドバイザー派遣 | 5企業 |
| (4) 事業所向け啓発誌 | | 5,600部 |

2 国 男性の家庭生活への参画支援事業【計画】（総務費）

人権推進課 0.2百万円

家事・育児・介護などの多くを女性が担っている現状を踏まえ、男性が女性と協力してこれらを担えるように、必要な知識やノウハウの取得に向け、男性を支援する講座等を行いました。

家事・育児・介護参画講座 4回

5 教育環境の充実

1 国 学習センターの整備【計画】【新規】（教育費）

学務課・指導室 118百万円

放課後等に学習センター（学校図書館）を活用し、児童・生徒が図書やタブレット端末を使って自学自習する場を提供しました。

元年度は、学習センター（学校図書館）において自主学習できる一人一人の環境を確保す

るため、机上に設置するパネル（間仕切り）等を中学校21校に導入しました。

また、学校司書の配置時間数を増やし、授業において学習センター（学校図書館）を活用した調べ学習等の充実を図るとともに、ブックトークなどを行い、読書活動の充実を図りました。

さらに、学習センター（学校図書館）を利用する生徒の学習状況を見守ることができる人材を配置しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

2 Ⅲ教育情報化推進事業【計画】【拡大】（教育費）

指導室 1,588百万円

グローバル化や情報化など急激な社会的変化の中で、未来の創り手となる子どもたちが、これからの時代に求められる資質・能力を確実に身に付けることができるよう、学校におけるICT環境の整備、授業及び校務におけるICTの活用等、教育の情報化の推進を図りました。

元年度は、2年度からの本稼働に向けて次期学校教育総合システムを構築しました。また、小学校に大型提示装置を導入し、授業におけるICT機器の活用を推進しました。

3 Ⅲかつしかグローバル人材育成事業（英語によるコミュニケーション能力育成）

【計画】【拡大】（教育費）

指導室 78百万円

これからの社会をたくましく生き抜くことができる人材を育成することをめざし、「英語によるコミュニケーション能力」を育成できる環境を整備するとともに、そこで得られた資質や能力が十分に発揮できる取組の充実を図りました。

元年度は、イングリッシュキャンプの日数を、1泊から2泊に増やし、異文化を体験しながら、英語が学べる機会の充実を図りました。

（1）日光移動教室における体験的外国語活動の実施

小学6年生の日光移動教室にALTが同行し、現地を訪れる外国人に対してインタビューを行うなど、英語で会話をする時間を過ごしました。

（2）夏季休業日中の英語宿泊体験活動（イングリッシュキャンプ）の実施

宿泊体験型の施設において、48人の中学1・2年生を対象とした英語だけで生活する体験活動を実施しました。ロールプレイなどを取り入れている施設独自のレッスンプログラムにより、普段の授業では体験できない機会を過ごし、コミュニケーション能力の向上を図りました。

（3）葛飾教育の日を活用した「English Day」の実施

外国語科及び外国語活動のALT等を活用した公開授業を行いました。

（4）中学生海外派遣事業の実施

ホームステイや現地校への通学等、グローバル人材の育成を図るため、48人の中学2年生を対象とした海外派遣を実施しました。

（5）中学生英語検定料助成

2,085人の中学2年生を対象に1回分の英語検定料を助成しました。

(6) 地域英語教材の活用

小・中学生向けの区独自地域英語教材を活用した授業を全ての小・中学校で実施しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進及び7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

4 区 学校支援総合対策事業（発達障害の可能性のある子どもに対する重層的な支援体制の充実事業）【計画】（教育費）

学務課・指導室・学校教育支援担当課 31百万円

発達上の課題のある児童・生徒に対して教員が巡回指導を行う「特別支援教室」を全小・中学校で実施しました。

元年度は、高砂中学校に「自閉症・情緒障害特別支援学級（固定学級）」を設置し、入級対象児童・生徒の区内全域への拡大に向けて、ニーズ把握や効果を踏まえ検討を進めました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

5 区 学校支援総合対策事業（不登校対策プロジェクト）【計画】（教育費）

学校施設担当課・学務課・指導室・学校教育支援担当課 30百万円

不登校やその傾向にある児童・生徒の状況把握を行い、一人一人の学校復帰に向けた支援策を検討し、各学校への指導・助言を行いました。

元年度は、訪問型学校復帰支援や適応指導教室を実施するとともに、幸田小学校、金町中学校、中川中学校及び葛美中学校に設置している「校内適応教室」の取組の成果を検証し、引き続き不登校児童・生徒の復帰を支援しました。

また、校内適応教室を奥戸中学校及び上平井中学校に設置する準備を行いました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

6 区 学校支援総合対策事業（日本語指導の充実）【計画】（教育費）

学校施設担当課・学務課・指導室・学校教育支援担当課 35百万円

来日直後等で、日常の学校生活で使う日本語や生活習慣についての指導が必要な児童・生徒に対して日本語の初期指導を行う「にはんごステップアップ教室」を総合教育センターにて運営しました。

また、中之台小学校、松上小学校及び新小岩中学校に設置した日本語学級において、授業に必要な日本語の指導を行ったほか、新たな日本語学級を亀有中学校に設置する準備を行いました。

さらに、日本語の理解が十分でない児童・生徒及びその保護者と教職員との意思疎通を支援するため、通訳派遣を行いました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

7 国 体力向上のための取組【計画】（教育費）

指導室 11百万円

子どもたちの基礎体力の向上のため、全校で統一した目標に向けた「かつしかっ子チャレンジ（体力）」を実施し、運動に取り組む機会をつくりました。小学校では、チャレンジ検定（体力）のチェックカードを作成し、日常生活の中で検定を実施するとともに、全ての学校において、創意工夫した取組を推進しました。

また、小学校及び保田しおさい学校では、学校の実態に応じた体力向上の取組や東京2020大会に向けて意識の高揚を図る「葛飾体力伸び伸びプラン」を実施するとともに、中学校においては、「トップアスリート派遣事業」等の取組の充実を図りました。

これらの取組により、自ら運動・スポーツに親しむことができる「運動好き」の子どもたちを育成しました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進及び7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

8 国 学校施設の改築【計画】（教育費）

学校施設計画担当課・学校施設担当課・学務課 4,599百万円

適切な学習環境を確保できるよう、学校規模の適正化や老朽化の状況などを踏まえ、地域バランスを考慮しながら学校改築を進めています。

元年度は、改築・改修を進めている6校のうち、東金町小学校の新校舎建設工事に着手したほか、高砂けやき学園高砂小学校・高砂中学校、西小菅小学校の改築・改修に向けた工事を開始しました。また、小松中学校では新校舎が完成し、本田中学校では新校舎建設工事を引き続き進めました。

さらに、平成30年9月に決定した改築校7校のうち、水元小学校、道上小学校の基本構想・基本計画の策定に取り組んだほか、その他の学校についても改築に向けて検討を進めました。

(1) 改築校

小松中学校、東金町小学校、高砂けやき学園高砂小学校・高砂中学校

(2) 一部改築・改修校

本田中学校、西小菅小学校

(3) 平成30年9月に決定した改築校

水元小学校、道上小学校、二上小学校、よつぎ小学校、柴又小学校、宝木塚小学校、常盤中学校

9 国 学校体育館への冷暖房機器の設置【計画】【新規】（教育費）

学校施設担当課 90百万円

安全で適切な教育環境を確保するため、また、災害発生時における地域の避難所としての機能を向上させるため、学校体育館に順次冷暖房機器を設置しています。

元年度は、中学校24校のうち、改築に着手済の2校（小松中学校、本田中学校）を除く、22校の体育館に冷暖房機器を設置しました。

10 園校庭の芝生化【計画】（教育費）

学校施設担当課 8百万円

児童・生徒の学習活動及び地域住民による校庭の効率的活用の推進と、近隣への砂塵飛散の抑制のため、学校や地域の要望を踏まえながら天然芝もしくは人工芝を整備しています。

元年度は、大道中学校の校庭の人工芝生化に向けて、設計を行いました。

11 園学校における教育相談（教育費）

指導室・学校教育支援担当課 53百万円

全小・中学校に配置しているスクールカウンセラー（臨床心理士等）について、中学校には週2日配置し、カウンセリング機能の充実を図るとともに、教員との連携を強化し、相談体制の充実を図りました。

また、家庭への働きかけを行うスクールソーシャルワーカー（社会福祉士等）を1名増員し、不登校や問題行動などがある児童・生徒に対して、家庭環境などに起因する問題の解決に向けた支援の強化を図りました。

※1-6-1 葛飾区版ネウボラの推進に再掲

12 園科学教育センター（未来わくわく館）の改修事業（教育費）

指導室 48百万円

展示物の老朽化のため、30年度から元年度にかけて展示物の入れ替え及び修繕を行いました。元年度は、12個の新たな展示物の製作・設置を行い、より楽しく科学の不思議を体験し、科学と技術に興味・関心を高められるようにしました。

6 葛飾区版ネウボラの推進（重要プロジェクト）

1 園葛飾区版ネウボラの推進（福祉費・衛生費・教育費）（再掲）

育成課・健康づくり課・指導室ほか 720百万円

子育てを取り巻く環境を考慮し、支援を必要とする全ての子育て世代や子ども自身の不安や悩みに応え、寄り添って支援することを目的に、妊娠期から子どもが成人するまでの期間を通して、妊娠・出産・子育て、教育に係る各分野の連携を深め、切れ目なく支援するしくみを「葛飾区版ネウボラ」として推進しました。

（福祉費） 111百万円

- ・産後ケア体制の整備（1-1-2）
- ・かつしか子ども応援事業（1-1-5）
- ・若者支援体制の整備（1-1-6）
- ・ゆりかご葛飾（1-3-1）

(衛生費) 6百万円

- ・妊婦歯科健康診査 (1-1-3)

(教育費) 603百万円

- ・学校施設を活用した放課後子ども支援事業 (1-3-4)
- ・学習センターの整備 (1-5-1)
- ・かつしかグローバル人材育成事業 (英語によるコミュニケーション能力育成)
(1-5-3)
- ・学校支援総合対策事業 (発達障害の可能性のある子どもに対する重層的な支援体制の充実事業) (1-5-4)
- ・学校支援総合対策事業 (不登校対策プロジェクト) (1-5-5)
- ・学校支援総合対策事業 (日本語指導の充実) (1-5-6)
- ・体力向上のための取組 (1-5-7)
- ・学校における教育相談 (1-5-11)

2 健康でともに支えあい、いきいき暮らせる地域社会づくり

1 健康づくりの推進

1 区民健康づくり支援【計画】（衛生費）

地域保健課・健康づくり課・青戸保健センター 14百万円

区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけを作りました。

健康に関する情報に触れ、健康づくりを行う機会が増えるよう、健康に関する講義を行う健康大学を5回、笑いと健康講座を1回、区内公共施設や商業施設などにおけるまちかど健康相談を21回行いました。

また、健康習慣の定着を促進するため、健康目標を立て、「歩く」「走る」などの健康につながる活動や健康診査等の受診によりポイントを貯め、抽選で健康関連グッズ等が当たる「かつしか健幸マイレージ事業」を実施し、延べ578人の応募がありました。

さらに、食事や運動を通じて健康づくりが実践できるよう、活動量計やスマートフォンを使い、歩数データなどの自己管理を促すとともに、健康に関する講座などを行う「かつしか健康チャレンジ事業」を実施し、911人の参加がありました。

2 グループ健康づくり支援【計画】（衛生費）

健康づくり課・青戸保健センター 0.9百万円

健康づくりの担い手である健康づくり推進員を中心とするグループや、その他の自主グループの健康づくり活動を57グループに対して支援しました。

健康講座を開催するほか、出張健康チェックの実施、健康課題に関する資料やパンフレットの提供、区のイベントにおけるグループ活動の紹介などを行いました。

3 自殺対策事業【計画】（衛生費）

保健予防課 3.0百万円

自殺予防に関する正しい知識を普及するために、リーフレットの作成・配布等による啓発や、うつ病とギャンブル依存症をテーマにした講演会を各1回実施しました。

また、自殺の危険がある人に気付き、話を丁寧に聴いて必要な相談窓口に確実に繋がることができる人材を育成するため、職員等を対象にゲートキーパー研修を実施し、246人が受講しました。

さらに、総合的な自殺対策の推進を図るため、葛飾区自殺対策計画を策定しました。

4 受動喫煙対策の推進【計画】【新規】（衛生費）

健康づくり課 10百万円

受動喫煙による健康への悪影響を防止するため、施設内における受動喫煙対策に取り組みました。

施設に応じた対策を進めるため、受動喫煙対策窓口を設置するとともに、普及啓発チラシを飲食店に配布しました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に一部再掲

5 囲 長寿歯科健康診査【計画】（衛生費）

健康づくり課 10百万円

40歳から70歳まで5歳刻みの成人歯科健康診査から更につなげる形で、75歳の高齢者を対象に歯科健診と口腔機能のチェックを行い、歯と口腔の健康づくりを進めました。

(1) 歯科健康診査等の実施

歯科健康診査とあわせて口腔機能のチェックを実施し、健診結果に基づいた治療勧奨や保健指導を行いました。

受診者数 888人

(2) 口腔機能維持のためのフォロー教室

長寿歯科健康診査受診者及び公募による65歳以上の区民を対象に、歯科医師による講習会を実施しました。「食べる」「話す」に不可欠な口腔機能を維持していくことの大切さを認識してもらい、自らが歯や口の健康増進に取り組んでいけるようにフォロー教室を開催しました。

6 囲 かつしか糖尿病アクションプランの推進【計画】（衛生費）

健康づくり課 5百万円

区内医療関係者の糖尿病診療の標準化や連携体制の強化を図るため、糖尿病対策推進会議を3回、予防推進医療者講習会を2回開催し、講習会には延べ48人が受講しました。

また、糖尿病の予防から療養指導までに関する正しい知識を普及啓発するため、イベントの開催やリーフレットの配布を行うとともに、糖尿病の発症や重症化を予防するため、未受診や治療の中断を防止するためのサポートを引き続き実施しました。

7 囲 がん対策の推進【計画】【新規】（衛生費）

健康づくり課 595百万円

がんを予防し、がんの早期発見を実現させるため、がん対策を推進しました。

「葛飾区のがん対策のあり方に関する報告書」に基づき、がんの予防に関する普及啓発を促進するとともに、がん検診の受診率・精度管理の向上に取り組みました。

元年度からは、胃がん検診において内視鏡検査を導入し、7,347人が内視鏡検査を受診しました。

8 国かつしかの元気食堂推進事業【計画】【拡大】（衛生費）

健康づくり課 6百万円

区民の健康長寿をめざし、食の環境整備を推進しました。栄養バランスが良い、野菜が多い、自分に合った量を選べるなどの健康に配慮したサービスを提供する飲食店のほか、中食（弁当・惣菜等）での組合せを考慮したメニューを提供する店も「かつしかの元気食堂」に加えた結果、認定登録店は4店増えて124店となり、PRを推進しました。

また、食育に関する情報を定期的に発信する飲食店等を「かつしかの元気な食応援店」として289店登録し、多くの方が利用するスーパーマーケット等の登録店を通じて、食の啓発を図りました。

9 国残薬調整支援事業【新規】（福祉費）

国保年金課 1.2百万円

葛飾区薬剤師会の協力薬局（92局）が区民に残薬バッグを予め渡し、医師の処方箋と一緒に飲み残しの薬が入った残薬バッグを持参してもらうことで、薬剤師が服薬指導を行い区民の健康管理につなげました。残薬があった場合には減算調整することにより、医療費の適正化を図りました。

2 地域包括ケアシステムの深化・推進（重要プロジェクト）

1 国認知症の早期発見・早期支援の推進【計画】（福祉費・介護保険事業特別会計）

地域包括ケア担当課 11百万円

認知症高齢者や家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、認知症疾患医療センターや葛飾区医師会と連携し、認知症を早期に発見し、認知症の人や家族を支援していく体制を強化しました。

（1）もの忘れ予防健診

①対象者	68歳～72歳及び75歳の区民	35,507人
	うち、一次健診受診者数	3,182人
	二次健診受診者数	850人

②事業概要 区からもの忘れ予防健診受診券を送付し、区内受託医療機関で、医師による問診と簡易な検査を実施し、認知症の疑いのある高齢者を早期に発見し、支援しました。

（2）もの忘れ相談会

①実施場所	高齢者総合相談センターなど
②事業概要	医師会の認知症サポート医等が、最近もの忘れが気になる方や認知症の相談をしたい方などの悩みに応じました。

※2-2-4 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の機能強化に別途計上

（3）認知症初期集中支援チーム

医療・介護の専門職が認知症の疑われる方を早期に訪問し、必要な医療・介護の導入や調整及び家族支援などの初期支援を行いました。

2 国 認知症の普及啓発の推進【計画】（福祉費・介護保険事業特別会計）

地域包括ケア担当課 3.4百万円

認知症高齢者や家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、幅広い世代に対して認知症の正しい理解について普及啓発を推進しました。

(1) 認知症サポーター養成講座

区民、事業者、ボランティア団体、小・中学生などを対象に講座を開催して認知症に関する基礎知識や認知症の方への接し方を学んで、地域で見守りができる方を増やしました。

認知症サポーター 2,793人

(2) 認知症カフェの設置・運営

認知症の方や認知症の方を介護する家族を地域で支えるため、認知症家族会や認知症サポーター等の協力を得て、認知症の方や家族の方が地域で気軽に集える場（認知症カフェ）を高齢者総合相談センター等に設置・運営しました。

(3) かつしか認知症高齢者等共生プロジェクト

医師などの専門家や公募区民、大学生などによる認知症の普及啓発に関する検討会がまとめた提言を踏まえ、認知症普及啓発イベントを実施するほか、大学の学園祭などの場で、認知症の理解を深める啓発活動を行い、若い世代をはじめとする多くの区民の方に認知症についての理解を広げました。

※(1)の一部及び(2)は、2-2-4 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の機能強化に別途計上

3 国 認知症高齢者徘徊対策の推進【計画】【拡大】

（福祉費・介護保険事業特別会計）

高齢者支援課・地域包括ケア担当課 2.7百万円

認知症により自宅に戻れなくなる、あるいは事故等に巻き込まれる恐れのある高齢者等を早期に発見し保護することで、高齢者の身体・生命の安全を守るとともに、万が一の事故等に備え家族の安心に繋がりました。

元年度より、おでかけあんしん事業利用者を対象に、認知症による徘徊等に起因する電車の運行不能等による損害賠償責任を補償する「おでかけあんしん保険」事業を実施しました。

①おでかけあんしん事業 加入者数 598人

②おでかけあんしん保険 加入者数 560人

4 国 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の機能強化【計画】

（介護保険事業特別会計）

地域包括ケア担当課 511百万円

ひとり暮らし高齢者の孤立化防止など、地域における高齢者の生活を支援するために、家族や地域住民等から相談や通報を受けるだけでなく、積極的に戸別訪問等を実施しました。

また、施設入所者等を除く75歳を迎える方全員を対象に実施する戸別訪問では、不在者への再訪問を強化し、社会的孤立や認知症等の恐れがある高齢者の早期発見・早期対応を推

進しました。

- 高齢者総合相談センター 7か所
(水元、新宿、高砂、青戸、堀切、東四つ木、奥戸)
- 高齢者総合相談センター分室 7か所
(水元公園、金町、柴又、亀有、お花茶屋、立石、新小岩)

5 生活支援体制整備事業の推進【計画】【新規】(介護保険事業特別会計)

地域包括ケア担当課 5百万円

高齢者を地域で支える基盤をつくるため、高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)が中核となり、地域の生活支援に関するニーズや地域資源を把握し、地域で助け合う仕組みづくりを進めました。都営団地自治会や民生委員と連携し、懇談会や住民アンケートを経て、地元商店の移動販売が開始される等、地域で助け合い、支え合うまちづくりにつながっています。

※高齢者総合相談センターに係る経費は、2-2-4 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の機能強化に別途計上

6 在宅医療の推進【計画】(衛生費)

地域保健課 18百万円

高齢者が心身の健康維持を図り、疾病を抱えても住み慣れた地域で生活を続けていくことができるよう、医療機関や介護サービス事業所などの関係機関が連携し、在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を整備しました。

元年度は、医療連携相談員を設置し、電話相談や病院への訪問等、313件の対応を行い、在宅療養患者・高齢者搬送支援事業では102件の搬送実績がありました。また、多職種間の連携強化を図るため、在宅医療介護連携推進会議を開催しました。さらに、在宅医療に関する普及啓発活動として、区民向けセミナーを3回開催し、在宅療養ガイドブックの配布を行いました。

3 介護予防事業の充実

1 高齢者に対する栄養指導【新規】(衛生費)

健康づくり課 0.5百万円

高齢者の健康課題であるフレイル(心身が虚弱な状態)対策の一環として、長寿医療健康診査結果を活用し、意識啓発を行い、27人に栄養指導を実施しました。

2 区民と取り組む介護予防事業【計画】（福祉費・介護保険事業特別会計）

高齢者支援課・地域包括ケア担当課 60百万円

現在、区で実施する身体機能の維持や認知症予防などを目的とした介護予防事業を、地域の自主グループの育成・支援を主体とした事業に、より一層重点を置いて推進しました。また、住民主体サービスについては、地域の自主グループ等が行う介護予防活動を支援し、その取組を推進しました。

(1) 筋力向上・脳力（のうちから）トレーニング事業及び回想法教室事業

身体機能や認知症機能の向上に効果が見込まれる筋力向上トレーニングなどを実施して、地域のリーダーを養成し、トレーニング等に取り組む地域の団体を支援しました。

(2) うんどう教室事業

公園内に設置した専用の運動器具を使用し、つまずいたり、ふらついたりすることを予防するためのうんどう教室及び地域指導員養成等を行いました。

①うんどう教室

対象等	おおむね65歳以上、定員40人程度
実施場所	高砂北公園・お花茶屋公園・間栗公園 東金町四丁目平成公園・青戸平和公園
実施回数	月2回
参加者数	延べ1,436人

②地域指導員実践教育

対象等	地域指導員養成講座修了者、定員20人程度
実施場所	青戸平和公園
実施回数	月1回（元年9月まで）
参加者数	延べ93人

③地域指導員スキルアップ講座

対象等	地域指導員実践教育修了者、定員20人程度
実施場所	高砂北公園・お花茶屋公園・間栗公園 東金町四丁目平成公園・青戸平和公園
実施回数	年4回（青戸平和公園は年2回）
参加者数	延べ117人

(3) 住民主体サービス実施団体への支援

地域での介護予防活動が活発化するように、介護予防の要素を含んだ活動（ミニ・デイサービス、高齢者等サロン）を行う団体の活動を支援しました。

また、高齢者等サロンを行う団体に対し、リハビリ等の専門職を派遣できる仕組みを構築し、より効果的な介護予防活動につなげました。

①活動団体への助成

ミニ・デイサービス	16か所
高齢者等サロン	28か所

②専門職の派遣

派遣実績	リハビリ	7件、栄養指導	3件
------	------	---------	----

3 介護予防チャレンジ事業【計画】（福祉費）

高齢者支援課・地域包括ケア担当課 6百万円

身体機能の維持や認知症予防に効果のある介護予防教室やシニア版ポニースクールを開催

するとともに、フィットネスクラブと協働して運動習慣推進プラチナ・フィットネス事業を行い、介護予防に取り組む高齢者を増やしました。

(1) 介護予防教室事業

レクササイズ、音楽療法、音楽’ d e脳トレ、ポールウォーキング、大人の塗り絵、健美操、まちかどエクササイズ、スポーツボイスフィットネス、コグニサイズ、座禅・瞑想

(2) 運動習慣推進プラチナ・フィットネス事業

高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、住み慣れた地域で自立した生活を送れるように、フィットネスクラブの運動プログラムの中から、体力や興味にあわせたプログラムへの参加を支援しました。専門インストラクターが利用者に対して運動の指導・助言を行うとともに運動が習慣化されるように働きかけることで、運動の継続性を確保しました。

- ① 対象者 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の区民
- ② 実施場所 区内に施設を有する9か所のフィットネスクラブ
- ③ 参加者数 317人

(3) シニア版ポニースクール事業

ポニースクールかつしかにおいて、介護予防に関する講話のほか、ポニーの乗馬や餌やり、手入れなどを行いました。足腰のトレーニングや正しい姿勢の保持につなげることで、介護予防への意欲を高めました。

- ① 対象者 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の区民
- ② 参加者数 延べ135人

4 国 介護支援サポーター事業の拡充【拡大】（介護保険事業特別会計）

高齢者支援課 12百万円

介護支援サポーターが区内の介護施設等でボランティアを行った際に付与するポイント（交付金）の上限を撤廃することにより、介護支援サポーターの活動意欲を高め、ボランティア活動が継続しやすい環境をつくることで、高齢者の社会参加や地域貢献を促進して、高齢者自身の更なる介護予防につなげました。

登録サポーター数 653人

4 介護・福祉サービスの充実

1 国 特別養護老人ホームの整備支援【計画】（福祉費）

福祉管理課 870百万円

優先度が高いと判定されている区民ができるだけ早く入所できるよう、特別養護老人ホームの整備を計画する社会福祉法人に対して、施設整備費の一部を助成し、整備を促進しました。

(1) ケアホーム葛飾（小菅一丁目35番10号）

令和2年4月開設・定員120人

併設施設 短期入所生活介護（ショートステイ）定員18人

社会福祉法人平成記念会が運営

- (2) 癒しの里西亀有（西亀有三丁目18番6号）
令和2年8月開設・定員120人
併設施設 短期入所生活介護（ショートステイ）定員20人
社会福祉法人三幸福社会が運営

2 ㊦ 認知症高齢者グループホームの整備支援【計画】（福祉費）

福祉管理課 15百万円

認知症高齢者が介護や日常生活の援助を受けながら共同生活を行う、認知症高齢者グループホームの整備を計画する事業者に対して、施設整備費の一部を助成し、整備を促進しました。

- 愛・グループホーム東金町（東金町五丁目34番7号）
令和2年3月開設・定員18人（2ユニット）
株式会社愛総合福祉が運営

3 ㊦ 看護小規模多機能型居宅介護施設の整備支援【計画】（福祉費）

福祉管理課 0百万円

近年、高まりつつある在宅介護と連携した医療サービスの需要に対応するため、「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」の複数のサービスを一体的に行う、看護小規模多機能型居宅介護施設の事業計画を区内全域で1か所募集しましたが、一定の基準を満たす事業計画がなかったため、元年度は整備支援を行いませんでした。

4 ㊦ 社会福祉協議会事業に対する支援の拡充【拡大】（福祉費）

福祉管理課 224百万円

これまでの制度やしくみでは十分に対応できない区民生活上の課題に対応するため、成年後見事業の支援体制強化や、死後の諸手続きをする人がいない方に対するエンディングサポート事業のほか、社会福祉法人のネットワーク化やNPO等を支援する地域貢献活動サポート事業等を実施する社会福祉協議会を支援することで、地域福祉の拡充を総合的に推進しました。

5 ㊦ 介護保険事業の円滑な運営に向けた介護給付適正化の推進【拡大】

（介護保険事業特別会計）

介護保険課 15百万円

要介護認定の適正化、介護保険給付費通知、給付情報の縦覧点検や医療情報との突合点検を引き続き実施するとともに、元年度は、ケアプラン点検や住宅改修・福祉用具利用の確認・点検を強化し、プラン作成支援等介護給付適正化に取り組みました。

5 障害者の自立生活支援

1 障害者就労支援システムの整備【計画】（福祉費）

障害福祉課 46百万円

18歳以上の就労意欲のある障害者に対して、就労支援プランに基づき、企業実習、作業訓練等を行うとともに、就労に向けての経験を積む場として、区が期限を設けて障害者を雇用する「葛飾区チャレンジ雇用」を実施しました。

元年度は、企業への就労者はいませんでしたが、引き続き一般就労に向けて支援をしていきます。

(1) チャレンジ雇用

知的障害者、精神障害者を区の非常勤職員として雇用し、個別支援プログラムに基づき、仕事を通じて経験や技術を高めるとともに、定期的な就職活動を行うことにより、一般就労に結びつけています。作業訓練の一つとして、区の各部署から依頼された事務補助作業を行い、職員のスキルアップを図りました。

(2) 利用者工賃向上推進事業

障害者通所施設に対して、販売計画や目標工賃、施設の特徴を生かした企画立案のための経営コンサルタントの派遣費用やその具体的な取組に要する経費を助成しました。

(3) 就労訓練、職場定着支援

職場開拓、求職活動及び就労後の定着支援のために、就労支援専門員を8人配置しました。

また、民間通所施設や企業内の通所訓練施設に対する就労支援指導員に係る経費の助成や、就労しようとする障害者に対して雇用の安定を確保し就労への不安をなくすため、民間通所施設に就労支援助成金を支給する事業などを引き続き実施しました。

2 精神保健福祉包括ケアの推進【計画】【新規】（衛生費）

保健予防課 0.1百万円

精神障害のある方が、住み慣れた地域で医療を継続し、充実した生活を送ることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加、地域の助け合いが包括的に確保された「精神障害に対応した地域包括ケアシステム」の実現をめざします。

元年度は、葛飾区精神保健福祉包括ケア推進協議会を開催し、措置入院や長期入院等をしている方の退院後支援や在宅療養支援等について、関係機関と意見交換を行いました。

6 低所得者の支援

1 生活困窮者自立支援事業【計画】（福祉費）

福祉管理課 178百万円

生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者からの就労をはじめとする複合的な相談に応じるとともに、一人一人の状況に応じた自立支援計画を策定し、関係機関とともに計画的かつ継続的な支援を実施しました。

自立支援計画件数 308件

7 地域の支えあいの推進

1 Ⅲ 成年後見事業の拡充【計画】【拡大】（福祉費）

福祉管理課・高齢者支援課・障害福祉課 44百万円

判断能力が不十分な高齢者や障害者が、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を送ることができるように、成年後見等を必要としている人への支援体制の拡充を図りました。

(1) 成年後見制度利用促進基本計画の策定

成年後見制度の利用の促進に関する法律の施行を受けて、新たに成年後見制度利用促進基本計画を策定しました。

(2) 区長申立制度、成年後見制度の利用支援

成年後見制度を利用することが有用であると認められる高齢者や障害者で、成年後見の申立てをする方がいない方に、区長が成年後見の申立てを行いました。

また、区長申立てにより成年後見人等が選任された方で、後見人等報酬費用について助成を受けなければ制度の利用が困難な方にその費用の全部又は一部を助成しました。

区長申立件数 58件

報酬助成件数 37件

(3) 成年後見センターの運営等

葛飾区社会福祉協議会が設置する「葛飾区成年後見センター」で、成年後見制度に関する相談や支援、普及・啓発、法人後見の受任などを行うとともに、成年後見制度のしくみなど必要な知識・技能・倫理を修得して後見人等の業務を適正に行うための講座を開催し、5人が受講を修了しました。

また、新たに成年後見制度の運用を円滑に進めるために、親族後見人や市民後見人を支援できる地域連携ネットワークの構築や中核機関の設置に向けた検討を行いました。

8 スポーツによる元気なまちづくり（重要プロジェクト）

1 Ⅲ 高齢者の健康づくりの推進【計画】（教育費）

生涯スポーツ課 7百万円

健康寿命の延伸をめざし、高齢者が自主的・積極的に安心してスポーツを行うことができる環境を整備し、地域で定期的に体力テストや体組成測定器を使った体力測定会を行い、健康体操プログラムの提供を行いました。

また、手軽に取り組めるスポーツプログラムとして、本区の推奨スポーツであるグラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、ダーツの3種目を普及推進していくほか、葛飾区公認スポーツ指導員とスポーツボランティアの更なる活用を図りました。

元年度は、ランニングステーションを活用したランニング・ウォーキング教室を新たに実施しました。

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| (1) 高齢者推奨スポーツ | グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、ダーツ |
| (2) 区民健康体力テスト測定会 | 7地域 年14回 出前形式 年2回 計635人 |
| (3) ランニング・ウォーキング推進 | ランニング 1大会 中止
ウォーキング 1大会 105人 |
| (4) ランニングステーション事業 | ランニング 2教室 41人
ウォーキング 4教室 29人 |
| (5) スポーツボランティア講習会 | 年2回 計46人 |

※（３）及び（５）は、７－１－１東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

2 障害者スポーツの推進【計画】（教育費）

生涯スポーツ課 ４．９百万円

障害者が自主的に安心してスポーツ活動に取り組めるよう、障害者スポーツ指導員の養成を推進するとともに、指導員を活用し年間を通して定期的に教室を開催しました。また、パラリンピック正式種目であるボッチャ競技、スペシャルオリンピックス正式種目であるフロアホッケーを推進して、障害がある人もない人も一緒に楽しめる「ユニバーサルスポーツ」の普及促進を図りました。

（１）障害者水泳教室

（教室）	年２０回	計２６３人
（専用レーン）	年１８回	計５６人
（夏期短期教室）	年４回	計５１人

（２）障害者スポーツ教室 年２２回 計３６４人

（３）障害者スポーツ指導員養成・活用 講義７回・実技４回 認定７人

（４）ボッチャ交流大会 年１回 ５５人

（５）ボッチャ教室 年５回 計７９人

（６）ボッチャ体験 週１回 計４４１人

（７）フロアホッケー 大規模大会・教室

（８）ユニスポ広場 週１回（１月から開始） 計２３人

※（４）は、７－１－１東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

3 区民健康スポーツ参加促進事業【計画】（教育費）

生涯スポーツ課 ７百万円

（一社）葛飾区体育協会と協働して、３９の加盟団体スポーツ種目を中心に、高齢者・障害者・ジュニア層・子育て中の親子など、あらゆる世代を対象として、運動経験の少ない方や初心者向けのスポーツ教室、体験会などの事業を実施しました。

※７－１－１東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

4 区スポーツ施設の利用しやすい環境整備【計画】（教育費）

生涯スポーツ課 ８４８百万円

スポーツ施設を安心して利用できるよう、老朽化に伴う改修や、利便性・安全性を向上させるための計画的なスポーツ施設の改修などに取り組み、安全で快適にスポーツができる環境を整備しました。

元年度は、奥戸総合スポーツセンター大小体育室天井改修工事や東京２０２０大会で正式種目となるスポーツクライミングの施設建設工事などを行いました。

(1) 奥戸総合スポーツセンター改修

大小体育室天井改修工事やテニスコート人工芝張替え工事など、スポーツ施設の改修工事を行いました。また、エイトホール・野球場改修に向けた改修計画を策定しました。

(2) スポーツライミング施設建設

東金町運動場にスポーツライミング施設を建設しました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

5 国かつしかふれあいRUNフェスタ2020の開催（教育費）

生涯スポーツ課 20百万円

子どもから高齢者まで幅広い層の区民が、個人や家族、仲間同士でランナーとして参加できるだけでなく、スタッフや応援者などとして、様々な形でイベントを楽しめる機会を確保し、スポーツ実施率の向上や健康増進をはじめ、多世代の交流や地域との交流などにつながるスポーツイベントとして令和2年3月8日（日）に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

(1) 内 容

堀切水辺公園（スタート・ゴール）～荒川河川敷

①ふれあい健康RUN 1～5キロ

エントリー数 3,001人

参加費 1,000～2,000円

②チャレンジRUN 10キロ～ハーフ

エントリー数 4,487人

参加費 3,000～4,000円

※区民先行エントリーは①、②とも500円引き

(2) 大会中止後の対応

既に支出した経費のうち、参加賞（タオル等）については、後日参加者あてに送付しました。また、支出しなかった経費相当額については、参加者に還付しました。

9 生涯学習事業の推進

1 国かつしか区民大学事業の推進【計画】【拡大】（教育費）

生涯学習課 9百万円

区民の生涯学習を支援するために設けた学びのしくみ「かつしか区民大学」では、区が企画する講座、大学などの教育機関との連携・協働講座、区民や団体が企画する講座があり、元年度は104講座を実施し、多様な学習の場として、区民の自己実現を支援しました。

あわせて、かつしか区民大学開学10周年の記念事業として、特別講演会を実施しました。

また、「かつしか郷土かるた」については、パネル展の開催や「かつしか郷土かるた周遊アプリ」を葛飾区総合アプリ内で展開し、更なる普及・活用を図りました。

※かつしか区民大学講座に係る経費の一部は、7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

2 国 郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修【計画】（教育費）

生涯学習課 150百万円

博物館ボランティアや区民との協働を進めながら、区民ニーズを考慮した新たなテーマや切り口で、特別展・企画展を開催するとともに、全国的に評価の高いプラネタリウムも、より一層クオリティの高い番組を放映しました。

また、天文展示室に設けた、セミナーやミニ講座等が開催できる場を活用し、天文ボランティアの活動が充実するよう促しました。

さらに、元年度から2年度にかけて常設展示室の一部を、これまでのテーマ別展示から、古代から現在までを年代別で展示する形態にすることで、葛飾区の歴史が一貫性のある分かりやすい展示に改めるとともに、フロア全体をバリアフリー化しています。

これらの取組を通じて、郷土かつしかと天文に対する関心や理解を深めることに資するとともに、区民に愛され誇りとされる、何度も訪れたい博物館にしていきます。

(1) 特別企画展示室での展示実施 2回

(2) 常設展示室の改修

「かつしかと水」エリア、「かつしかのあゆみ」エリア

令和元年10月～令和2年9月

※(1)は、7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

3 住み続けたいと思える、安全・安心なまちづくり

1 自助・共助・公助による災害対応力の強化（重要プロジェクト）

1 水害対策の強化【計画】（総務費）

危機管理課・都市計画課 55百万円

国や都が新たに公表した洪水・高潮の浸水想定区域図に基づいて洪水ハザードマップの見直しを行い、大規模水害時の区民の避難行動についてわかりやすく示した解説版の冊子と一緒に全戸配布しました。

また、広域避難対策のための近隣自治体との相互協力体制の構築を進める一方で、やむを得ず逃げ遅れた場合に備え、中高層建築物へ避難できる仕組みづくりに取り組みました。

さらには、大規模水害のリスクに備えた「浸水対応型市街地構想」の策定やその実現方策を検討し、堤防と一体的となった市街地の防災機能の強化をめざします。

元年度は、水害時に避難所となる小中学校の浸水対応型拠点建築物化について検討を行いました。

2 学校避難所の防災機能の強化【計画】（総務費）

地域防災課 54百万円

災害時の断水に備えて、避難所となる小・中学校にマンホールトイレの整備を行うとともに、マンホールトイレの水利を確保するため、井戸の整備を行いました。

元年度は、それぞれ5校で整備を行いました。

3 地域防災の連携・強化【計画】【拡大】（総務費）

危機管理課・地域防災課 17百万円

避難所開設の初動活動や開設後の運営について、地域と学校が主体となった自主的活動として確立されるように、学校避難所運営会議や訓練を実施しました。さらに、学校避難所初動開設の方法を説明した映像を制作し、多くの区民が避難所開設方法を学ぶきっかけづくりを行うとともに、自治町会や学校などと連携し、避難所運営会議及び避難所運営訓練を行うなど、確実な継続と新たな運営協力者の発掘を行いました。

また、地域の防災資源を活用して、地震や水害などの災害への対応策について地域住民が主体となって検討する会議を地域ごとに開催しました。会議の中で、自治町会、消防団、PTA、企業等による地域ぐるみの防災ネットワーク（地域内協定）を構築し、地域防災力の強化を図るとともに、地域の特性を踏まえた防災マニュアルを策定しました。

元年度は、総合防災訓練の一環として52校の学校避難所で開設訓練を実施したほか、学校避難所運営会議4校、地域防災会議6か所の実施を支援しました。

4 国 防災の意識啓発【計画】（総務費）

危機管理課・地域防災課 8百万円

防災対策は、自らの命は自らで守る「自助」が基本となり、共助・公助は自助が前提となります。自助の意識付けをするために、幅広い層を対象とした防災講演会やワークショップを実施して、防災の意識啓発を図りました。

また、若年層を含む多くの区民の方が防災に関心をもって頂けるよう、放水体験やVRを活用した防災訓練等の防災普及イベントを実施し、防災への意識啓発を図りました。

5 国 災害対策本部の強化【計画】【拡大】（総務費）

危機管理課・調整課 43百万円

首都直下地震や水害などの大規模災害において区民の生命・財産を守るため、災害対策本部が災害対策各部及び防災関係機関と連携し迅速かつ効果的に応急・復旧活動を行うことができるよう、高所カメラや防災システム等の情報伝達ツールを活用しながら実働訓練を実施し、必要に応じて災害対策本部マニュアルや情報連絡体制の強化を行いました。

（1）総合防災訓練の実施

元年度は、関係機関等と連携した災害対策本部訓練や地域住民等による避難所開設・運営訓練を実施しました。

特に、区（災害対策本部）と避難所や物資搬送拠点、医療救護所等との情報連絡にIP無線や災害対策用スマートフォン等を活用し、災害対策本部への情報の集約や、災害対策本部から学校避難所等への指示を行うといった実践的な訓練を実施しました。

（2）高所カメラの利用拡大

災害時における情報収集等に資するため、28年度に設置した高所カメラシステムを区内消防署に引き続き区内警察署に導入しました。

6 国 受援・物資搬送の強化【計画】【拡大】（総務費）

危機管理課・地域防災課 96百万円

大規模災害時において、都・他自治体等からの人的支援の円滑な受入れや、支援職員の活用方法等について定めた「葛飾区災害時受援計画」及び災害時に避難者の要望に応えられる区の備蓄の在り方や、応援物資の受入れ・配送等に関する「物資搬送計画」に基づき、災害対応活動力を向上させるために、関係機関との協定締結の推進、輸送拠点施設の改修等を推進しました。

7 国 災害時協力井戸設置助成【計画】【新規】（総務費）

地域防災課 1.9百万円

災害時に区民に水を供給できる井戸を設置した福祉施設等に対して、設置にかかる費用を助成しました。

2 災害に強いまちづくり

1 国 民間建築物耐震診断・改修事業【計画】（総務費）

建築課 396百万円

地震時の建築被害や建物倒壊による道路閉塞を防止するため、木造住宅の耐震診断士派遣のほか、旧耐震基準で木造以外の建築物の耐震診断や耐震改修等にかかる工事費用の一部を助成しました。また、耐震化促進普及啓発活動等を実施しました。

- (1) 木造住宅耐震診断士無料派遣 476件
- (2) 木造建築物耐震化助成
設計20件、改修23件、建替え133件、除去194件
- (3) 非木造建築物耐震化助成
マンション設計2件、マンション改修1件
- (4) 一般緊急輸送道路沿道の建築物耐震化助成 診断2件
- (5) 特定緊急輸送道路沿道の建築物耐震化助成 設計1件
- (6) 耐震シェルター助成0件
- (7) 耐震アドバイザー無料派遣0件
- (8) 耐震化促進普及啓発のための説明会及び相談会の開催20回
液状化対策説明会及びブロック塀等対策説明会と同時開催
- (9) 葛飾区建築設計事務所協会による相談・受付を実施100日

2 国 地盤の液状化対策【計画】（総務費）

建築課 6百万円

地盤の液状化による住宅の被害を軽減させるため、窓口相談や説明会において区民向けのパンフレット等を活用して情報提供を行いました。

また、建築敷地の地盤状況を把握するとともに、液状化対策を実施しやすくなるよう、住宅の新築や建替えの際に地盤調査費や液状化対策費の一部を助成しました。

- (1) 液状化対策説明会及び相談会の開催20回
耐震化促進普及啓発及びブロック塀等対策のための説明会及び相談会と同時開催
- (2) 地盤調査費助成11件
- (3) 液状化対策費助成1件

3 国 四つ木地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 684百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる公園・小広場の整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

元年度は、地区内の主要生活道路・公園の用地取得や設計を行いました。また、不燃化特区の木造住宅建替え助成により地区内の不燃化を促進しました。

4 国東四つ木地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 420百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる公園・小広場の整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

元年度は、地区内の主要生活道路の用地取得や設計、みなみ広場の整備を行いました。また、不燃化特区の木造住宅建替え助成により地区内の不燃化を促進しました。

5 国東立石地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 255百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる小広場の整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

元年度は、地区内の主要生活道路の用地取得を行いました。また、不燃化特区の木造住宅建替え助成により地区内の不燃化を促進しました。

6 国堀切地区の街づくり【計画】（都市整備費）

街づくり推進担当課・密集地域整備担当課・住環境整備課 188百万円

堀切地区のめざすべき街の将来像である「堀切地区まちづくり構想」をもとに作成した「まちづくり戦略（案）」の具体化に向け、地域のまちづくり組織への支援を行うとともに、荒川橋梁架替事業と連携した街づくりの検討を進めています。

また、密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる公園・小広場の整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

元年度は、引き続き、まちづくり推進協議会への活動支援を行い、堀切菖蒲園駅周辺における「まちづくり戦略（案）」の具体化に向けた検討を行いました。

また、堀切二丁目周辺及び四丁目地区においては、主要生活道路の用地取得に向けての調査や、不燃化特区の木造住宅建替え助成により地区内の不燃化を促進しました。

7 国細街路拡幅整備事業【計画】（都市整備費）

住環境整備課 254百万円

幅員の狭い道路を4メートルの道路とするために、建築確認申請の手続の前に道路中心を明確にし、拡幅整備を行いました。また、建築予定がない場合でも、関係権利者の協力により拡幅可能な箇所を整備しました。

個別方式 164件 2,056m

8 国 空家等対策【計画】【新規】（都市整備費）

住環境整備課 3.2百万円

適切な管理が行われていない空家等が災害、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているため、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、管理者への助言・指導等を行い、地域住民の生命・身体・財産の保護及び生活環境の保全等を推進しました。

また、29年度に策定した空家等対策計画に基づき、空家等の対策を着実に進めました。

(1) 空家等対策協議会の開催

①開催回数 6回（協議会 3回、専門部会 3回）

②協議内容 区の空家等対策の重要事項に関すること など

(2) 空家等対策講演会の開催

空家等の所有者向けの講演会を開催しました。（1回）

(3) 空家等現地調査

空家等の老朽度や周辺への影響を確認するため、専門家とともに立入調査を行いました。

9 国 災害医療体制の充実【新規】（総務費）

地域保健課 2.1百万円

災害時の電源供給の停止により在宅人工呼吸器使用者が生命の危険にさらされることがないように、また、緊急医療救護所での救護活動を行う際に必要な電源を確保するため、緊急医療救護所8か所、金町保健センター及び新小岩保健センターにカセットガス発電機を配置しました。

3 生活安全対策の推進

1 国 地域安全活動支援事業【計画】【拡大】（総務費）

地域防災課・生活安全課 181百万円

犯罪や事故の発生を減らし区民の安全を守るため、関係団体との連携を図りながら、区民・地域への啓発・情報提供、各種犯罪の被害防止、地域で行われる自主活動や防犯設備の整備に対する支援などを推進し、安全な地域社会の形成をめざします。

元年度からは、区による青色防犯パトロールを開始し、地域によるパトロールと連携するなど、更なる効果拡充を図りました。

2 国 消費者対策推進事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 30百万円

区民が自立した消費者として行動できるよう、消費者問題に取り組んでいる団体の活動を支援するとともに、消費者情報の提供、消費者講座等の学習機会の確保、消費生活相談の実施など、様々な取組を推進しました。

元年度は、30年度に引き続き、郵便物などによる架空請求詐欺に関する相談が多数あり

ました。区民の被害を未然に防ぐため、消費者講座による啓発や、区役所ロビーへのパネルの設置を行いました。

また、葛飾区消費生活対策アクションプログラムに基づき、消費者教育を一層推進するため、地域や学校などへの出前教室を積極的に行いました。

消費者講座	19回	延べ	405人
出前教室	17回	延べ	1,557人

3 国 予防接種の拡充【計画】【新規】（衛生費）

保健予防課 78百万円

感染症の予防や二次的障害の防止を進めるため、予防接種対象者の拡大や費用負担の軽減を図るなどの拡充を行いました。

元年度からは、おたふくかぜ予防接種費用の無料化や風しん予防接種等の対象者を拡大し、費用助成を行いました。

おたふくかぜ予防接種	3,603人
風しん抗体検査	5,981人
風しん予防接種	1,712人

4 国 感染症対策の強化【計画】【新規】（衛生費）

保健予防課 0.1百万円

訪日客の増加などにより国外からもたらされる感染症の脅威に対応するため、フェイスシールドの備蓄や疫学調査・指導用端末を整備し、感染症対策を強化しました。

5 国 自動体外式除細動器等の購入【拡大】（衛生費）

地域保健課 7百万円

区民及び区有施設利用者等の生命を守るため、心肺停止時に自動体外式除細動器（AED）を速やかに使用することができるよう、区内どこでも半径300m以内にAEDが設置されている状態をめざして、設置を進めました。

元年度は、耐用期間を終えるAED等の交換を行うとともに、コンビニエンスストア10か所にAEDを新規設置しました。

6 国 動物適正飼養推進事業【拡大】（衛生費）

生活衛生課 6百万円

飼い主のいない猫対策を推進するため、不妊・去勢手術費用の助成額を増額するとともに、地域のボランティアグループの連絡会を開催しました。

助成限度額	オス	5,000円／1匹
	メス	10,000円／1匹

7 国 配偶者暴力防止事業【計画】（総務費）

人権推進課 3.6百万円

あらゆる暴力の防止に向けて、社会全体で取り組めるよう、配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護に関するパンフレットの作成・配布や講演会等を実施し、区民の意識向上を図りました。

また、男女平等推進センター（配偶者暴力相談支援センター）では、DV被害者の支援を行いました。

（1）女性に対する暴力相談（DV相談）の実施

- ①実施場所 男女平等推進センター
- ②実施回数 92回（週2日）

（2）DV防止・啓発事業

- ①DV予防啓発冊子の作成
- ②講座・講演会実施 4回

4 葛飾の良さを生かした、魅力と活力あふれるまちづくり

1 魅力ある観光まちづくり（重要プロジェクト）

1 国かつしか観光推進事業【計画】【拡大】（産業経済費）

観光課 130百万円

(1) 『こち亀』を活用した観光振興策

① 『こち亀』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する亀有駅～浅草寿町間の路線バス1台にラッピング広告を継続し、『こち亀』ゆかりの地「葛飾」「亀有」をPRしました。

② 着ぐるみを利用したPR

「両さん」「中川」「麗子」のキャラクター着ぐるみを活用して、亀有地区の賑わいを創出しました。

③ 銅像めぐりマップの更新

『こち亀』のキャラクター銅像めぐりマップに、スタンプラリー台紙を加える等の更新を行い、亀有地域の回遊性の向上及び活性化を図りました。

(2) 『キャプテン翼』を活用した観光振興策

① 『キャプテン翼』ゆかりの地「京成立石駅」でのPR

『キャプテン翼』ゆかりの地をデザインした看板を京成立石駅南口に継続して設置し、作品の魅力を生かした観光PRを進めました。

② 『キャプテン翼』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する亀有駅～新小岩駅東北広場間、新小岩駅東北広場～市川駅間の路線バス及び東京都交通局が運行する金町駅～浅草寿町～上野松坂屋前間の路線バス各1台にラッピング広告を継続し、『キャプテン翼』ゆかりの地「葛飾」「四つ木・立石」をPRしました。

③ 『キャプテン翼』モバイルスタンプラリー参加者へのボンフィン配付

モバイルスタンプラリー参加者に対して、『キャプテン翼』オリジナルボンフィンを配付し、誘客につなげました。

④ 『キャプテン翼』ペナントを活用したPR

まいろーど四つ木商店街振興組合の街路灯に『キャプテン翼』ペナントを設置し、『キャプテン翼』ゆかりの地をPRしました。

(3) 『モンチッチ』を活用した観光振興策

① 『モンチッチ』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する新小岩駅東北広場～亀有駅間及び新小岩駅東北広場～市川駅間の路線バス2台にラッピング広告を継続し、『モンチッチ』に会えるまち「葛飾」「新小岩」をPRしました。

② 地域イベント

JR新小岩駅周辺で実施する新小岩駅東北ひろばまつりで、『モンチッチ』を活用し、イベントの更なる盛り上げを創出しました。

(4) 『リカちゃん』等を活用した観光振興策

① 『リカちゃん』バスラッピング広告

京成バスが運行する亀有駅～新小岩駅東北広場間の路線バス2台にラッピング広告を継続し、「リカの好きなまちかつしか」をPRしました。

② 『リカちゃん』ARフォトフレーム

葛飾区総合アプリ内で『リカちゃん』のオリジナルフォトフレームが取得できる『リ

カちゃん』ARフォトフレームを構築しました。なお、2年度にリリースを予定しています。

③『プラレール』スタンプラリー

京成電鉄、タカラトミー及び区内商店街と協働した『プラレール』スタンプラリーを実施し、地域の賑わいの創出及び観光客の誘客を図りました。

(5) 文化的景観を活用した観光振興策

柴又のまち歩きを楽しめるガイドマップや、帰宅後も楽しめる写真集や読み物としての要素を加えたパンフレットを増刷し、また、外国語版を新たに作成することで、重要文化的景観に選定された葛飾柴又の認知度を高め、誘客を図りました。

(6) 菖蒲めぐりバスの運行

菖蒲まつり期間中の土・日曜日に、堀切菖蒲園、水元公園、柴又等区内観光スポットを結ぶラッピングバス3台を運行しました。

(7) フィルムコミッション事業

映画、ドラマなどのロケーションの誘致や撮影に関する相談・立会いなどを行うとともに、ロケ地マップを作成し、撮影を支援した作品を通じて区の魅力を発信しました。

(8) 広域観光プロモーション事業

①訪日外国人観光PR

訪日外国人観光客を区に誘致するため、台湾で行われた旅行博でのPRや訪日向け旅行サイトに掲載している区の観光情報の充実、SNSでの区内観光スポットの紹介を行い、国内及び海外の両面からPRを展開しました。

②押上駅観光案内

乗降客の多い押上駅構内の広告媒体に大判ポスターを掲出し、葛飾区の魅力を多くの方にPRしました。

③東京駅前観光案内所等での情報発信

東京駅前のTIC東京、東京シティアイといった圧倒的な集客力を誇る民間の観光案内所等において、国内外の観光客に向けて区の観光情報を発信しました。

また、京成タウンバスが運行する新小岩駅東北広場～浅草寿町間の路線バス1台にラッピング広告を継続し、葛飾区の観光地やイベントをPRしました。

(9) 葛飾産品アンテナショップ事業

柴又駅前の観光案内所において、観光情報の提供や区内で生産された工業製品等をPRするとともに販売し、観光客へ葛飾区の魅力を発信しました。

(10) おいでよ亀有事業

亀有地域で、自治町会や商店会等と協働し、イルミネーションの装飾及び集客イベントを実施し、まち全体の賑わい創出や、観光客の誘客及び地域活性化を図りました。

(11) ライティング・コラボレーションかなまち

金町地域で、自治町会や商店会等と協働し、イルミネーションの装飾及び地方と連携したマーケットを実施し、まち全体の賑わいの創出や、観光客の誘客及び地域活性化を図りました。

(12) 観光パンフレットの作成

28年度に作成した「葛飾観光ガイドマップ」について、新たな情報に更新するとともに、外国語版を作成しました。

※(8)の一部は、7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

2 国 観光資源づくり事業【計画】【拡大】（産業経済費）

観光課 30百万円

- (1) 映画『男はつらいよ』公開50周年イベント
映画『男はつらいよ』の舞台となった葛飾柴又をPRし、更なる誘客につなげるため、映画公開50周年の機会を活用したイベントを実施しました。
- (2) きらめきの街・新小岩事業
新小岩地域のまちの賑わいを創出し、更なる観光客の誘客や地域の活性化を図るため、自治町会や商店会等と協働し、イルミネーションの装飾や集客イベントを実施しました。
- (3) かつしか観光大使事業
葛飾区にゆかりのある著名人を「かつしか観光大使」に任命し、区の魅力を積極的に区内外に発信することにより、区のイメージアップ及び観光振興へと結びつけました。

2 人情味あふれる地域づくり

1 国 ふるさと葛飾盆まつり（総務費）

地域振興課 37百万円

昔から葛飾の人々の結びつきを強めてきた盆踊りをメインとしたまつりを地域との協働で開催しました。多くの区民に親しまれている盆踊りを通じて、区民同士の連帯感やふるさと葛飾への愛着心をさらに深めてもらうとともに葛飾の魅力を内外に広く発信しました。

開催日 令和元年9月7日（土）
場所 葛飾にいじゅくみらい公園
内容 輪踊り、練り歩き、盆踊りコンテスト、地域コンサート等
来場者数 約26,000人

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

3 花いっぱいのもちづくり（重要プロジェクト）

1 国 緑と花のもちづくり事業【計画】（環境費）

環境課 39百万円

区民の自主的な活動により区内に緑と花を一層広めるような取組を積極的に展開しました。昨年度から継続して東京2020大会公認プログラムに花いっぱいのもちづくり活動を「花いっぱいでおもてなし」として登録し、東京2020大会の機運醸成を図りました。

- (1) 「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」の運営
活動団体、事業者、緑化推進協力員、区で構成する「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」を運営し、区民と区の協働による花いっぱいのもちづくりを推進しました。
- (2) 花いっぱいホームページの運営
27年度に開設した専用ホームページを引き続き活用し、花いっぱいレポーターと

の協働により、活動団体相互の意見交換や活動状況のPRを行いました。

(3) 地域緑化の推進

①活動団体への支援

地域の人々の目に触れる公開性のある場所で緑と花を育てる活動を行う団体に花苗、種、球根などの配付や、園芸用具の貸与を行い、その活動を支援しました。

②緑花生活の推進

環境・緑化フェアや東京2020大会に向けた花いっぱいでおもてなしフェスティバルなどのイベントで、区民へ花苗の配付を行うとともに、園芸教室などの開催により区民の緑化意識の向上を図りました。

また、「葛飾区緑化推進協力員会」との協働による花と緑のはがきコンクールや「かつしか花いっばいのまちづくり推進協議会」との協働により花いっばいの花壇コンクールや花いっばいでおもてなし花壇フォト人気投票を開催しました。

(4) 公共空間への展開

東京都の「花の都プロジェクト」に採択されたフラワーメリーゴーランドを区内の駅前広場に展開しました。また、総合庁舎にはパナソニック(株)との技術協定によりミスト付のフラワーキャンバスを設置し、花による都市の修景と暑熱対策を展開しました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

2 園花を生かした景観整備【拡大】（都市整備費）

公園課 29百万円

柴又公園の河川敷に花壇を設置し、チューリップ等を植えて、堤防上から江戸川を望む花の風景を構築しました。

また、公園などで行っている地域開放型花壇管理についても支援を拡大しました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

4 産業の活性化

1 園葛飾ブランド創出支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 10百万円

区内製造業が開発した優良製品等3件を「葛飾ブランド」として認定し、それらの製品等の持つエピソードを基にしたマンガ「町工場物語」を作成・配布するとともに、展示会への出展、専用ホームページによるPRなどを行いました。

また、令和元年8月にこれまでの認定製品も含めた葛飾ブランドの展示販売会を東京駅に近接したKITTEのパフォーマンスゾーンで開催しました。

2 園東京理科大学との産学公連携推進事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 6百万円

区内企業と東京理科大学との間で産学公連携体制を構築し、大学の有する先端的な研究

機能と葛飾の町工場が得意とする製造・加工技術との連携交流を推進しました。

(1) 共同開発事業への助成

共同開発にかかる経費について1件助成し、新製品・新技術開発事業を支援しました。

(2) 専属コーディネーターの配置

区内事業者と東京理科大学との企業技術のマッチングを行うために専属コーディネーターを配置し、区内企業に対するPRや相談、大学研究室に関する情報収集を行い、新製品・新技術開発などを推進・支援しました。(区・商工会議所・大学の3者で費用を負担)

(3) 産学交流イベントの実施

交流イベントの一環として、東京理科大学で区内事業者が気軽に参加し質問できる少人数参加型講座を4回開催し、延べ64人が受講しました。また、研究室に向けて区内事業者が発信を行う町工場プレゼンテーションを開催し、23人が参加しました。

(4) 産学公連携推進協議会の運営

大学、区内企業・金融機関、区等で構成する協議会で産学公連携事業の方向性等を検討しました。

3 区 区内産業人材育成支援事業【計画】(産業経済費)

商工振興課 0.2百万円

区内企業が技術・技能・知識等の習得を目的として実施する人材育成事業について、その経費の一部について3件助成しました。

4 区 産業見本市開催事業【計画】(産業経済費)

商工振興課 3.5百万円

多種にわたる区内製造業を集め、区内外の発注企業との商談の機会の充実を図り、ものづくりのまち「かつしか」の優れた技術を発信する「町工場見本市2020」を開催しました。東京国際フォーラムにおいて、令和2年2月13日と14日の2日間開催し、53社が出展しました。

5 区 伝統産業販路拡大支援事業【計画】(産業経済費)

商工振興課 1.2百万円

区内の伝統工芸士で組織する団体が、自ら製作した伝統工芸品を区外で展示及び販売する催しの開催や、参加するための経費の一部について3件助成しました。これにより、葛飾区の伝統工芸品を広く周知し、多くの消費者にその製品の良さを認識する機会を確保しました。

6 ㊦ 伝統工芸職人弟子入り支援事業（産業経済費）

商工振興課 6百万円

後継者が不足している伝統工芸職人を対象に全国から弟子候補を募り、親方と弟子候補とのマッチングを図り、元年度は、正式弟子としての養成期間6か月に対する指導・育成料、給与、生活費の経費支援を行い、4人が修了しました。

7 ㊦ 創業支援事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 25百万円

区と関係機関・団体が協働し、区内で創業をめざす方に、創業前から創業後の経営安定まで、情報やノウハウの提供、資金融資、人材確保について一貫した支援を行いました。元年度は、創業の基礎を学べる創業塾を7期間開催し、総勢194人が受講しました。

8 ㊦ 事業承継支援事業【計画】【新規】（産業経済費）

産業経済課 4.4百万円

区と関係機関、団体が協働し、地域産業の優れた技術を引継ぎ、区民の雇用を確保するため、情報やノウハウの提供、資金融資などにより、円滑な事業承継に向けた支援を行いました。

元年度は、若手経営者や後継者を対象とした「かつしか経営塾」を2期間開催し、総勢18人が受講しました。

9 ㊦ 「まちあそび人生ゲーム IN 葛飾」の実施支援（産業経済費）

商工振興課 5百万円

商店街のPRや新規顧客の開拓など商店街の活性化を図るため、タカラトミーと協働・連携事業として行う「まちあそび人生ゲーム IN 葛飾」の実施について助成しました。

10 ㊦ 公衆浴場ガス化等支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 4.5百万円

公衆浴場設備の新規ガス化等クリーンエネルギーへの転換や既設ガス燃料設備の更新を支援することで、浴場運営の負担を軽減し、経営の継続を図りました。

また、CO₂の排出削減など、環境負荷の低減を図り、元年度は、浴場3件に助成しました。

1 1 国 公衆浴場設備改善費等助成【拡大】（産業経済費）

商工振興課 1 8 百万円

公衆浴場の設備改善にかかる経費の助成額を拡大し、1 4 件助成しました。また、耐震化工事にかかる経費を 3 件助成することで、浴場運営の負担を軽減し、経営の継続を図りました。

1 2 国 商店街装飾灯管理費助成【拡大】（産業経済費）

商工振興課 2 4 百万円

防犯灯の役割も果たしている、商店街が保有する街路灯について、既存の電気料助成のほかに、LED ランプ交換に要する費用にも助成を拡大し、安心安全なまちづくりを推進するとともに、LED 化を促進しました。

(1) 装飾灯電気料助成

装飾灯	2, 7 3 9 基
アーケード内蛍光灯	1 6 0 m

(2) LED ランプ交換費助成

LED 装飾灯	3 3 2 基
---------	---------

1 3 国 農地保全支援事業【計画】【新規】（産業経済費）

産業経済課 9 百万円

多面的機能を持つ農地を保全するため、都市農地のPRを行うとともに、営農者向けに新生産緑地制度説明会や相談会などを実施しました。

防災兼用農業用井戸整備費等助成	1 1 件
説明会	3 回

1 4 国 雇用・就業マッチング支援事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 3 2 百万円

区民のキャリアアップと就労を支援するため、専門職員が、区内及び近隣の企業を訪問し、求人情報の収集や人材確保の相談を行うとともに、収集した求人情報を区民に紹介し、就労を支援しました。

また、求職者に対して個別カウンセリングや適職診断を実施し、適切な職業の紹介を行いました。

さらに、葛飾の産業を担う人材確保のため、セミナーや相談会等を開催し、若者・女性・シニアの就職を支援しました。

求職登録者	5 2 7 人、採用決定者	3 1 4 人
-------	---------------	---------

15 国プレミアム付商品券発行事業費助成【拡大】（産業経済費）

商工振興課 88百万円

区内商店街と区内商業の活性化や消費者サービスの向上を図ることを目的に、葛飾区商店街連合会が発行するプレミアム付商品券の発行経費の一部を助成しました。

元年度は、発行総数を増やして実施しました。

(1) 発行総額

495,000,000円（11,000円×45,000セット）

(2) プレミアム率

10%

5 文化芸術活動・多文化共生社会の推進

1 国文化芸術創造のまちかつしか推進事業【計画】（総務費）

文化国際課 17百万円

多くの区民に文化芸術活動への参加機会を提供するため、区民ニーズや地域の特性を踏まえた区民参加型の事業として、かつしかオリジナル作品公募事業（かつしか文学賞）や公募型文化芸術事業（地域コンサート）を実施しました。

(1) かつしかオリジナル作品公募事業（かつしか文学賞）

元年度は、「第4回かつしか文学賞」として葛飾を舞台としたオリジナル作品を募集し、大賞及び優秀賞を決定するとともに、それら受賞作品を取めた作品集を発行しました。

(2) 公募型文化芸術事業（地域コンサート）

地域の文化・芸術活動の活性化に貢献する個性的・創造性あふれる音楽イベントを広く公募し、9地域で実施しました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

2 国多文化共生社会の推進【計画】（総務費）

文化国際課 15百万円

外国人区民にとっても暮らしやすい地域となるように、生活に役立つ情報の提供や各種文化紹介講座・交流イベント等の開催、民間国際交流団体に対する事業費助成やボランティア活動に対する支援を行いました。また、東京2020大会の開催に伴う、外国人観光客の増加を見据えた取組を進めるとともに、友好都市や姉妹都市をはじめとする外国都市との交流を深めました。

※7-1-1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に一部再掲

3 区文化会館の修繕・改修（総務費）

文化国際課 133百万円

建物竣工から28年が経過し、様々な部位や設備に劣化や交換部品の製造停止等が見られるようになっている中で、利用者の利便性や安全性の向上、施設の機能維持、省エネ・低コスト設備への転換を図る改修を2年度から3年度にかけて行います。

元年度は、改修工事に向けた実施設計を行うとともに、舞台周りを管理するためのカメラ・モニターの更新等を行いました。

スケジュール（予定）

令和元年度

実施設計

令和2年～

契約、準備工事

令和3年3月～9月

施工 ※令和3年3月～9月末（7か月間）本館は休館

4 区亀有文化ホールの修繕・改修【新規】（総務費）

文化国際課 76百万円

前回の大規模改修から10年が経過し、様々な部位や設備に劣化が見られたため、利用者の利便性や安全性の向上、施設の機能維持を図ることを目的に、舞台機構制御装置の更新等を行いました。

6 活力あるまちづくりの推進

1 区無電柱化の推進【計画】（都市整備費）

道路建設課 18百万円

都市防災機能を強化するとともに、安全で快適な歩行空間及び良好な都市景観を創出するため、無電柱化推進計画に基づき、区道の無電柱化を推進します。

元年度は、「葛飾区無電柱化推進計画」を策定・公表し、計画路線の基礎調査・予備設計を行いました。

2 区街づくりの担い手育成・支援【計画】（都市整備費）

都市計画課 4.0百万円

区民と協働のまちづくりを進めるため、シンポジウム等の開催や震災復興まちづくり模擬訓練のほか、団体への活動支援など、まちづくりを担う人材やまちづくり組織の育成に向けた取組を推進します。

元年度は、震災復興まちづくり模擬訓練の基礎となる「葛飾区震災復興マニュアル（都市・住宅編）」の改定に取り組み、改定素案を作成しました。

3 国 新小岩駅周辺開発事業【計画】（都市整備費）

新小岩街づくり担当課 2,139百万円

新小岩駅周辺地区の都市基盤、環境整備を図るため、広場の整備、南北自由通路整備や各地区の具体的な事業化の検討を行うとともに、地域住民と協働して駅周辺の一体的なまちづくりを推進しています。

元年度は引き続き、新小岩駅南北自由通路を整備するとともに、北口と南口の駅前広場の整備や新小岩駅東南地区の自転車駐車場の設計にも着手しました。

また、「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」を実現するため、地区の特性に合った事業化の検討等を行いました。

4 国 金町駅周辺の街づくり【計画】（都市整備費）

金町街づくり担当課 885百万円

駅前拠点の開発により街づくりが進む「金町駅南口」と、新宿六丁目地区における東京理科大学の開設や民間開発等に併せた都市基盤整備などの実現をめざす「金町駅北口周辺」において、金町駅を中心に南口と北口が一体となり、広域複合拠点としての都市機能の充実をめざします。

元年度は、金町駅南口において、金町六丁目駅前地区の組合施行再開発推進のために3年度の竣工をめざして、支援を行いました。

また、金町駅北口周辺において、東金町一丁目西地区の再開発事業推進に向け、地元説明会をはじめとした都市計画手続きを進め、都市計画決定を行いました。金町駅北口自転車駐車場（西）用地の一部を活用して歩行空間を整備及び東金町一丁目自転車駐車場の拡張整備を行いました。今後も、駅前広場や生活幹線道路の拡幅整備などによる交通結節機能の向上と新たな賑わいの創出などの実現をめざし、地元住民やまちづくり協議会と協働して街づくりを推進します。

5 国 立石駅周辺地区再開発事業【計画】（都市整備費）

立石駅北街づくり担当課・立石駅南街づくり担当課 215百万円

立石駅周辺地区では、地元権利者が主体となって、現在の立石のまちの魅力を継承・発展させながら、更なる賑わいの創出と防災性の向上を目的に再開発事業による街づくりを進めています。区では、現地に「立石駅周辺地区街づくり事務所」を設け、職員が権利者等の相談に応じるなど、再開発事業による街づくりの実現に向けた支援を行っています。

元年度は、北口地区では、再開発組合設立に向けた準備組合活動を支援しました。

南口東地区では、区が都市計画決定を告示するとともに、再開発組合設立に向けた準備組合活動を支援しました。

南口西地区では、関係機関協議や計画案作成などの準備組合活動を支援しました。

検討区域全体面積 4.5ha（北口地区2.2ha・南口地区2.3ha）

6 国 高砂駅周辺の街づくり【計画】（都市整備費）

高砂・鉄道立体担当課 56百万円

高砂駅周辺の交通利便性や安全性・防災性を向上させ、魅力と活力ある広域生活拠点を形成するため、地元住民による街づくり勉強会への支援等を行い、鉄道立体化と一体となった街づくりを推進しています。

また、鉄道立体化の事業効果を最大限に発揮するため、駅前広場やアクセス道路の整備などにより交通結節機能を強化し、高砂駅周辺の拠点性の向上をめざします。

元年度は、駅前地区の再開発事業化検討や連続立体交差事業化の推進に必要な都市計画の検討、地元まちづくり活動支援などを行いました。

7 国 四ツ木駅周辺の街づくり【計画】【新規】（都市整備費）

街づくり推進担当課 3.6百万円

四ツ木駅周辺において地域住民に身近な拠点を形成し、交通利便性や安全性・防災性を向上させるため、鉄道立体化や区画街路第4号線、区画街路第6号線（駅前広場を含む）の整備に合わせて、地域とともに必要な街づくりを検討しています。

元年度は、街づくり検討調査を行いました。

8 国 青戸六・七丁目地区の街づくり【計画】（都市整備費）

街づくり推進担当課 0.9百万円

地区計画制度等を活用し、地区の特性を生かした街づくりを進めるとともに、安全・快適で利便性の高い街づくりを推進するため、道路や公園の整備とともに、地区内の交通や駅からのアクセスの円滑化など暮らしを支える基盤整備を進めています。

元年度は、30年度に行った道路工事の建物事後調査等を行いました。

9 国 都市計画道路の整備【計画】（都市整備費）

道路建設課 1,600百万円

安全で円滑な交通機能を確保するとともに、良好な道路環境を整備するため、沿道地域住民や権利者の理解を得ながら、都市計画道路の整備を着実に推進しました。

事業中路線（計画事業）

補助261号線（南水元）

補助264号線（細田西・環七付近）

補助274号線（立石）

補助276号線（一口橋南・隅田橋・細田北）

補助279号線（隅田橋）

補助284号線（東新小岩南・東新小岩北）

区画街路4号線（四つ木東・四つ木西）

10 国 新中川橋梁架替事業【計画】【拡大】（都市整備費）

道路補修課 556百万円

完成から50年以上が経過した、細田橋・高砂諏訪橋・八剣橋の架替事業を実施し、歩行者・自転車の通行の安全性や防災性の向上などを図ります。

元年度は、引き続き八剣橋の整備や、新たに細田橋の予備調査などを行いました。

11 国 京成押上線連続立体交差事業【計画】（都市整備費）

立石駅北街づくり担当課 1,346百万円

京成押上線（四ツ木駅～青砥駅間）連続立体交差事業は、鉄道を高架化し踏切を除却することにより、交通渋滞の解消、道路交通の安全確保、分断された地域の一体化を図ります。

元年度は、東京都及び京成電鉄(株)と連携して高架化工事及び付替道路工事を進めました。

12 国 自転車駐車場整備事業【計画】（都市整備費）

金町街づくり担当課・交通安全対策担当課 4.8百万円

駅周辺の再開発等の街づくりにあわせて、駅近くの適地に自転車駐車場の整備を図りました。

元年度は、西井堀せせらぎパーク自転車駐車場の改善、立石北第一自転車駐車場の拡張、金町駅北口自転車駐車場（西）の一部を歩行空間に整備し、あわせて、東金町一丁目自転車駐車場の拡張整備を行いました。

※金町駅北口自転車駐車場の再編経費は、4-6-4金町駅周辺の街づくりに別途計上

13 国 自転車活用の推進【計画】【新規】（都市整備費）

交通安全対策担当課・道路補修課 41百万円

自転車の活用による環境負荷の低減、区民の健康増進を図ることなどの新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進します。

また、誰もが安全・快適に利用できる自転車走行空間の整備や駅周辺への自転車駐車場の確保、自転車の安全利用の推進などの各種施策を複合的に展開します。

元年度は、自転車活用推進計画策定に向け、調査・検討などを進めるとともに、TSマーク（自転車保険付）の取得費用の助成などを行いました。

1 4 国 亀有駅前歩行環境改善事業（都市整備費）

道路補修課 0.8百万円

亀有駅南口駅前広場の歩行環境を改善するため、上屋の設置等の手続きを行いました。

1 5 国 自治町会との協働による地域力の向上（総務費）

地域振興課 3.7百万円

地域課題解決の核となって活動する自治町会の意義や魅力について、あらゆる世代に関心をもってもらうため、自治町会の魅力向上を図りました。

また、様々な機会を捉えて加入促進に取り組むとともに、時代に合った形で自治町会の魅力を発信しました。

（1）転入者向けリーフレット等の刷新

転入者の自治町会加入を促進するため、自治町会の活用事例や担い手の声を入れるなど、リーフレットの内容を刷新し、加入希望のはがき等とともにクリアファイルに入れて窓口等で配付しました。

作成部数 40,000部

（2）自治町会の課題解決に向けた支援

元年度はモデル実施として3つの自治町会にコンサルタント等を派遣し、課題解決に向けての支援を行いました。また、30年度にモデル実施した2つの自治町会の成果報告会を行い、課題解決に向けたプロセスや成果を他の自治町会に発信し、取組を促しました。

7 公共交通の充実（重要プロジェクト）

1 国 公共交通網の充実【計画】【拡大】（都市整備費）

交通政策課 1,024百万円

高齢社会の進展等の社会状況の変化に対応し、区がめざすべき公共交通網のあり方を定めた「葛飾区公共交通網整備方針」に基づき、バス交通の充実や新金貨物線旅客化の検討等に取り組みました。

（1）区内循環バス路線検討

高齢者をはじめとする区民や観光客など、区内を移動する方々にとって利用しやすいバス路線の充実に向けた方策や、これを実施するために必要なバス事業者への区の支援について検討しました。奥戸・細田地域と新小岩を結ぶ循環路線の開設や有70、有71、有72、有73系統のサービス水準の確保について、先行して取り組むことを整理しました。

（2）新金貨物線旅客化検討

交通信号による国道6号との平面交差について、技術的な課題解決の検討を行うとともに、国道6号以外の都市計画道路との踏切について、旅客化による踏切遮断時間の影響を検討し、国土交通省や警視庁、JR東日本等、関係機関との協議を行いました。また、旅客化の整備に要する資金に充てる基金の積立てを行いました。

(3) バス利用環境向上整備

バス交通の利便性向上及び利用促進を図るため、バス停留所付近にバス利用者用自転車駐輪場（サイクル&バスライド）を2か所設置しました。また、東武バスセントラル（株）の協力により、区内で初めて、バス事業者が整備・管理する駐輪場が設置されました。

- ・奥戸運動場バス利用者用自転車駐輪場
- ・細田三丁目バス利用者用自転車駐輪場
- ・葛飾車庫バス利用者用自転車駐輪場

(4) バス利便施設整備費助成

バスの待ち時間の負担軽減につながるバスロケーションシステム表示機やバス停留所上屋、ベンチの整備を行ったバス事業者に対し、整備費の一部を助成しました。

- ・バスロケーションシステム表示機 5基
- ・バス停留所上屋 2基
- ・バス停留所ベンチ 4基

(5) バスの利用促進

区内バス路線図裏面を活用した「バスを便利に利用するためのサービス」の紹介や、東京都シルバーパス更新会場へのポスター掲示等、バス交通に関する区民の認知度向上に向けた取組を実施し、利用促進を図りました。

2 区地下鉄8・11号線及び環七高速鉄道（メトロセブン）建設促進事業【計画】

（都市整備費）

交通政策課 1.5百万円

地下鉄8号線・11号線の延伸、メトロセブンの建設促進に向けて、関係区市及び都区連絡会とともに、協議会や調査研究を実施し、連携強化を図りました。

5 区民とともに築く、人にやさしく住みよいまちづくり

1 水と緑にふれあう快適空間の創出

1 園地域の核となる公園の整備【計画】（都市整備費）

公園課 25百万円

- (1) 西新小岩五丁目公園（西新小岩五丁目2番、7番）
拡張部の整備に向けて基本・実施設計を行いました。
- (2) （仮称）奥戸一丁目公園（奥戸一丁目28番）
公園整備に向けて実施設計を行いました。
- (3) 白ゆり公園（水元五丁目5番）
拡張部の整備に向けて、基本設計を行いました。
- (4) 鎌倉公園（鎌倉三丁目16番、21番、22番）
再整備に向けて、実施設計を行いました。
- (5) 小菅東スポーツ公園（小菅三丁目1番）
再整備に向けて、基本・実施設計を行いました。

2 園水辺のネットワーク事業【計画】（都市整備費）

道路補修課・公園課 97百万円

親しみの持てる水辺空間を創出するため、水辺のネットワークを整備しています。
元年度は、中川親水テラスの照明設置工事及び水元さくら堤の改修工事を行いました。

3 園西井堀せせらぎパークの改修【新規】（都市整備費）

交通安全対策担当課・公園課 2.0百万円

西井堀せせらぎパーク内にある駐輪問題や利用状況を踏まえ、再整備に向けた計画を策定し、整備を行っていきます。

元年度は、再整備に向けた基本構想を検討するとともに、放置自転車対策の対応として、放置自転車整理区域に指定し、公園下にある自転車駐車場の改善を行いました。

※自転車駐車場改善経費は、4-6-12自転車駐車場整備事業に別途計上

4 園河川環境改善事業（都市整備費）

公園課 220百万円

水元小合溜における河川環境改善について、ヒシ類等の大量繁茂の抑制や維持管理コストの縮減などを目的として、浄化施設の改善を進めます。

元年度は、河川環境改善基本・実施設計を行い、浄化設備工事に着手しました。

2 ユニバーサルデザインの推進

1 Ⅲ バリアフリー事業【計画】（福祉費）

福祉管理課・新小岩街づくり担当課 7百万円

高齢者、障害者等の、移動や施設利用の利便性や安全性向上を促進するため、バリアフリー基本構想で設定した重点整備地区(金町駅圏、京成立石駅圏、新小岩駅圏)のバリアフリー化を進めます。

元年度は、京成柴又駅に整備する内方線付き点状ブロック整備経費に助成を行いました。

また、JR新小岩駅に南北自由通路を整備するとともに、北口と南口の駅前広場でバリアフリー改修工事に着手しました。

※JR新小岩駅の南北自由通路整備経費、北口・南口の駅前広場バリアフリー改修工事費は、4-6-3新小岩駅周辺開発事業に別途計上

2 Ⅲ 歩道勾配改善事業【計画】（都市整備費）

道路補修課 77百万円

歩道の改善が必要な道路（計画延長約20km）について、段差や勾配等を改善し、高齢者や障害者、車いす利用者等、誰もが安全で快適に通行できる道路環境の整備を進めています。

元年度は、堀切七丁目で整備工事などを実施しました。

整備延長 約210m

3 Ⅲ 公共サインの再構築【計画】（総務費）

政策企画課 105百万円

区内に点在する多種多様な公共サインについて、葛飾区公共サインガイドラインにおける統一的なルールやデザインに準拠し、利用者にとって使いやすいものへ再構築しました。

東京2020大会を踏まえ、順次対象エリアの整備を進め、整備後は公共サイン本体や盤面情報など、適切な維持管理を行うとともに、区民や事業者と協働を図りながら利便性の向上を図っていきます。

元年度は、金町、立石・青砥、新小岩エリアの公共サインの整備及び、27年度にモデル整備した堀切エリア（堀切菖蒲園駅南側）の追加整備を行いました。

これにより、区内公共サインの整備が一巡しました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

4 Ⅲ 東京2020大会を契機とした人権意識向上への取組【新規】（総務費）

人権推進課 7百万円

東京2020大会を区民の人権への関心・意識を高める好機として、人権施策推進指針の改定を行ったほか、LGBT啓発物（パンフレット）の作成、オリンピックと人権をテーマとしたパネル作成・講演会等を実施しました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

3 エネルギー利用の効率化（重要プロジェクト）

1 国クリーンなエネルギーの普及促進【計画】（環境費）

環境課ほか 60百万円

区民・事業者に対するかつしかエコ助成による支援（太陽光発電などの再生可能エネルギーシステムの導入費助成）を行うなどクリーンなエネルギーの普及を促進しました。

(1) かつしかエコ助成による支援

①太陽光発電システム設置費助成（蓄電池併設の場合は5万円上乗せ）

ア) 住宅用（集合住宅を含む） 135件

イ) 事業所用 2件

②ゼロエネルギーハウス（ZEH）支援事業助成

住宅用 4件

(2) 学校や子育て支援拠点施設への太陽光発電システムの設置

小松中学校（工事） 20.0kW

子ども未来プラザ鎌倉（工事） 3.5kW

※小松中学校への設置経費は1-5-8学校施設の改築、子ども未来プラザ鎌倉への設置経費は1-2-3「子育て支援施設の整備方針」に基づく施設整備にそれぞれ別途計上

(3) 廃食用油再生利用促進事業

家庭で使用済みの食用油を、大気中のCO₂を増加させないバイオディーゼル燃料として再生利用するため、廃食用油の回収を行い、地球温暖化防止とともに資源循環の地域づくりを推進しました。

また、引き続きバイオディーゼル燃料仕様に改良した公用車を活用し、普及啓発を図りました。

回収場所 公共施設21か所

(4) 環境学習の実施

太陽光発電パネルと蓄電池がセットになった太陽光発電パネル付LED（環境学習教材）を用いて、区内小学校で環境学習を実施しました。

2 国区民の省エネ行動の推進【計画】（環境費）

環境課 139百万円

区民による環境に配慮した行動を推進するため、エコライフ推進事業やかつしかエコ助成による支援（省エネルギー設備等の導入費助成）などを実施しました。

(1) エコライフ推進事業

①エコチャレンジ（家庭部門）認定制度

省エネ・省資源等に取り組むことを宣言した区民の中で、取組と成果を報告した家庭を認定することで、日常の省エネ行動や省エネ機器・設備の導入など環境に配慮したライフスタイルへの転換を推奨・支援しました。

また、省エネナビの貸出しを行い、エネルギー使用量の「見える化」により、省エネへの関心度を高めました。

②エコマスター（家庭部門）認定制度

エコチャレンジの参加者の中で、優れた成果があった家庭についてはエコマスターとして認定しました。

- (2) 省エネ・環境学習教室の開催
実施回数 6回
- (3) 緑のカーテン普及啓発
小・中学校や区施設に設置している緑のカーテンを維持するとともに、身近な省エネ・緑化活動として区民・事業者への普及を図りました。
- (4) かつしかエコ助成による支援
 - ①家庭用燃料電池 127件
 - ②遮熱塗装等断熱改修費助成
 - ア) 個人住宅用 390件
 - イ) 集合住宅用 16件
 - ③個人住宅用LED照明機器設置費助成 17件
 - ④集合住宅用LED照明機器設置費助成（分譲及び賃貸マンションの共用部分）26件
 - ⑤蓄電池設置費助成
 - ア) 個人住宅用 267件
 - イ) 集合住宅用 0件
 - ⑥電気自動車等購入費助成 50件

3 区事業者の環境経営推進【計画】（環境費）

環境課 21百万円

事業者による環境に配慮した企業活動を推進するため、環境経営関連の各種認証・認定取得の支援や事業者へのエコチャレンジなどの認定制度、かつしかエコ助成による支援（省エネルギー設備等の導入費助成）を実施しました。

- (1) 環境経営認証取得費助成
 - ①エコアクション21認証取得・更新費助成 11件
 - ②グリーン経営認証取得・更新費助成 15件
- (2) 事業所における環境行動の推進
エコチャレンジ・エコマスター（事業所部門）認定制度
省エネ・省資源等に取り組むことを宣言した事業所の中で、取組と成果を報告した事業所のエコチャレンジ・エコマスター認定制度を周知し、日常の省エネ行動や省エネ機器・設備の導入など環境に配慮した事業活動への転換を推奨・支援しました。
- (3) かつしかエコ助成による支援
 - ①省エネルギー設備導入費助成
省エネ型小規模燃焼機器 6件、燃料電池 1件、空調設備 22件
 - ②LED照明機器設置費助成 36件
 - ③遮熱塗装等断熱改修費助成 6件
 - ④蓄電池設置費助成 1件
 - ⑤電気自動車等購入費助成 8件

4 区環境行動推進【計画】（環境費・都市整備費・教育費ほか）

環境課ほか 242百万円

区内最大規模の事業者として、省エネ・節電対策等に率先して取り組むなど、環境に配慮した行動を推進しました。

元年度は、引き続きエネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）上の削減目標を達成するために、29年度に策定した中長期計画に基づき施設整備・改修を実施し、「葛飾区環境配慮指針」を適切に運用しながらエネルギー使用量の更なる低減を図りました。

主な事業内容

空調機の高効率化（お花茶屋図書館、子ども未来プラザ鎌倉ほか）

蛍光灯等の高効率化（青戸平和公園、小松中学校ほか）

※空調機の高効率化経費及び蛍光灯等の高効率化経費は6-4-1計画的・予防的修繕の推進、1-2-3「子育て支援施設の整備方針」に基づく施設整備、1-5-8学校施設の改築に一部別途計上

4 環境施策の推進

1 圃生物多様性の保全【計画】（環境費）

環境課 18百万円

将来にわたって生物多様性が良好に保全されるよう、7つの河川に囲まれた区の特徴を生かした「生物多様性かつしか戦略」に基づき、生物多様性を保全し、生態系を再生・創出する取組や環境学習等による普及啓発を進めました。

(1) 水辺のふれあいルーム運営

水元小合溜の歴史やその周辺の自然環境の情報提供を行うとともに、環境講座や展示などを通じて環境保全の啓発を行いました。

(2) 自然環境レポーター事業

区民ボランティアとして区が認定した自然環境レポーターが、区内に生息する身近な生きものの状況や暮らしの中の生活環境などを調査し、結果を区が公表することで、生物多様性の保全への意識啓発を図るとともに、率先して環境問題に取り組む人材を育てました。

(3) 自然環境保全団体への支援

区内を中心に1年以上活動している団体に対し、環境保全に関する調査・研究活動、成果発表及び区民を対象とした啓発事業に係る経費の一部を助成しました。

助成団体 2団体

(4) 自然環境調査の実施

自然環境レポーターによるモニタリング調査に加え、専門業者による区内の池・水路などの水辺やその周辺の自然環境調査を実施することにより、戦略で定めた施策の効果を評価する際の資料としました。

(5) 葛飾区生物多様性推進協議会の運営

区民・地域団体・事業者・区の協働と参画により、生物多様性の保全活動を推進していくため、「葛飾区生物多様性推進協議会」の活動を通じ、地域における自然環境活動の取組を広げるとともに、自主的に先導できる担い手の育成を図りました。

(6) 自然環境学習の推進

①自然環境学習講座

河川の水質調査体験や校庭などで生きものを観察するなどの「自然環境学習出前講座」、区内の生きものなどの観察を行う「自然観察会」を実施しました。

ア) 自然環境学習出前講座

小学校15校、学童保育クラブ1か所、
区内イベント1か所

イ) 自然観察会

「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会 3回、
親子自然観察会 1回

②かつしかっ子探検隊

子どもたちが、体験活動を通して直接自然にふれることで、地域のよりよい環境を創造する意識を育みました。

体験活動 4回

③小さな水田の普及啓発

生きものが生育・生息しやすい環境を広げるため、プランターなどで行える「小さな水田」を普及啓発するためのパンフレット及び種もみを配布しました。

2 国かつしかルール等推進事業【計画】（環境費）

リサイクル清掃課 2.5百万円

区民・事業者・区の三者で構成する「かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会」を牽引役として、三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための体制を作り、主体的な取組を促進することで資源循環型地域社会の構築をめざします。具体的な取組として、「かつしかルール（毎年協議会で設定する、ごみ減量やリサイクルのための重点的な取組）」の「生ごみの減量」と「雑紙を徹底して分別し、資源にする」を様々な事業を通じて発信しました。

(1) 生ごみの減量

①フードドライブ運動の推進

食品ロス削減に向け、地域団体等が、家庭で余っている食品を社会福祉施設等に寄付するフードドライブ運動を、自主的に取り組めるよう支援を行いました。

②かつしか食べきり協力店事業

食べ残しによる食品ロスを削減するため、お客様に食べ切りの呼びかけ等を行っている区内店舗を「かつしか食べきり協力店」として登録し、資源とごみの収集カレンダーや区のホームページ等で発信しました。

③季節ごとの食べ切り・使い切りメニュー事業

家庭から排出される食べ残しや調理時に捨てられてしまう野菜の切れ端などによる生ごみを減量するため、食べ切り・使い切りメニューを広く区民に周知しました。元年度は、新たに東京聖栄大学と協働して「食べきり・使いきりメニュー料理教室」を実施しました。

(2) 雑紙分別の普及啓発

紙類の資源化等を更に推進するため、元年度は、小規模事業者向けの「事業系ごみの適正処理・減量ハンドブック」を作成しました。

(3) レジ袋の削減

レジ袋の削減のため、マイバッグ利用スタンプカード事業を3か所の商店街で実施しました。

3 国集積所美化等排出指導【計画】（環境費）

清掃事務所 1.7百万円

区内全域の集積所周辺の改善指導を引き続き実施し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図りました。

また、東京2020大会に向け、駅前市街地の中を走る道路沿い等の従来のクリーンアップエリアだけでなく、不法投棄やマナー違反の多い集積所もクリーンアップエリアに指定して戸別収集の拡大を進め、更なるごみのない、きれいなまちづくりに取り組みました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に再掲

4 国ポイ捨て防止等環境美化活動【拡大】（総務費）

地域振興課 105百万円

喫煙マナーの更なる向上を図るため、JR4駅周辺に続いて、京成線駅周辺を新たに喫煙禁止区域として指定し、パトロールやキャンペーン等の啓発事業を強化するとともに、喫煙禁止区域内への指定喫煙場所の設置及び維持管理を行いました。

(1) 喫煙禁止区域の指定

京成3駅（京成立石・堀切菖蒲園・お花茶屋）周辺

(2) 指定喫煙場所の設置

京成3駅（京成立石・堀切菖蒲園・お花茶屋）周辺 計3か所

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組に一部再掲

6 効果的・効率的な区民サービス提供への取組

1 新基本構想・新基本計画の策定

1 新基本構想・新基本計画の策定（総務費）

基本計画担当課 21百万円

あらゆる世代が住んでみたい・住み続けたいと思える明日の葛飾の創造に向けて、新基本構想の策定に係る検討を進めるとともに、新基本構想に掲げる将来像や理念の実現と「夢と誇りあるふるさと葛飾」の実現に向けて、3年度を初年度とする新基本計画の策定に係る検討を進めました。

策定期間	令和元年度～令和2年度
策定方法	策定委員会、庁内検討会などの設置 区民モニター制度などの活用

2 協働を推し進める環境づくり（重要プロジェクト）

1 国協働を推し進める環境づくり（総務費）

協働推進担当課 6百万円

区と関わりのある団体や事業者などの協働事例を紹介する協働事例集の作成や協働DVDの制作、地域の活動内容などを紹介して情報交流の機会を提供する協働ホームページの運営などにより、協働についての理解を深め、協働意識を高めるための取組を行いました。

また、地域社会に貢献した功績をたたえる協働まちづくり表彰や、ことばを通じて郷土愛を高める葛飾下町川柳コンクールを実施しました。

3 総合庁舎の整備（重要プロジェクト）

1 国総合庁舎の整備（総務費）

総合庁舎整備担当課 20百万円

総合庁舎は、老朽化や狭あい化が進み、また、災害対策拠点としての耐震性能の不足、バリアフリー対応など、多くの課題を抱えています。そのため、将来の整備に向けて検討を進めました。

元年度は、庁内基本プランを策定し、このプランをもとに、立石駅北口地区の再開発事業における施設建築物の設計の進捗と調整しながら、新庁舎内部の設計に向けて、庁内設備の仕様の整理等を行いました。

また、本庁舎の移転を契機にした業務の効率化を目的に、働き方の見直しや文書・物品の管理のあり方を検討しました。

4 公共施設の効果的・効率的な活用（重要プロジェクト）

1 国計画的・予防的修繕の推進（総務費・教育費）

施設管理課ほか 1,422百万円

公共施設の更新費用に係る財政負担の平準化を図るため、計画的・予防的な修繕により既存施設を維持・保全し、長寿命化を進めています。

施設の日常点検や各種調査結果を生かし、27年度に策定した葛飾区有建築物保全工事計画に基づく設計や工事について、効果的・効率的に取り組むとともに、3年度以降を対象とした第2期保全工事計画を策定しました。

(1) 小学校11校

葛飾小学校、新宿小学校、住吉小学校、亀青小学校、金町小学校、川端小学校、白鳥小学校、南奥戸小学校、東柴又小学校、西亀有小学校、花の木小学校

(2) 中学校4校

綾瀬中学校、上平井中学校、桜道中学校、亀有中学校

(3) 学校以外8施設

東立石地区センター、堀切地区センター、南綾瀬地区センター別館、亀有地区センター、文化会館、お花茶屋図書館、水元図書館、エイトホール

2 国不適合ブロック塀と万年塀の撤去・改修【新規】（福祉費・衛生費・教育費）

営繕課ほか 140百万円

小・中学校、幼稚園、旧学校、保育園・児童館、地区センター等の公共施設を調査し、傾きや亀裂のある塀の撤去工事を実施しました。今後も公共施設の安全確保を図るため、区内の不適合ブロック塀と万年塀について、各部と協力をしながら緊急性の高いものから順次、撤去・改修を進めました。

(1) 小学校6校

奥戸小学校、二上小学校、鎌倉小学校、柴原小学校、東柴又小学校、上小松小学校

(2) 中学校4校

水元中学校、奥戸中学校、桜道中学校、東金町中学校

(3) 学校以外5施設

小松保育園、宝保育園、幸田保育園、金町子どもセンター、あすなるの家

5 「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」の活用

1 国「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」の活用（福祉費）（教育費）

障害者施設課・学務課 11百万円

22年度に「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」を創設し、これまでにたくさんの寄附が寄せられています。寄附された方々の「ふるさと葛飾」への思いを実現するため、当該基金を活用した事業を実施しました。

(1) 福祉業務用車両の購入費助成

障害者通所施設で福祉業務に使用する車両の購入に係る経費の一部を補助し、利用者の送迎や自主生産品の販売などの活動を支援しました。

①補助対象 区内で障害者通所施設を運営する社会福祉法人等

②補助率 3/4

③補助件数 7件

(2) 小学校運営用備品の購入

学校運営や行事などに活用するため、下駄箱やスクリーンなどを購入し、老朽化した設備の一部を更新しました。

対象校 川端小学校

7 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組（重要プロジェクト）

1 国東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組

（総務費・環境費・教育費ほか）（一部再掲）

政策企画課・環境課・生涯スポーツ課ほか 1,355百万円

東京2020大会の開催に向けて気運醸成を図るとともに、国内外からの観光客を迎えるための取組、多くの区民がスポーツに親しむ機会や環境を充実する取組を進めました。

（総務費） 255百万円

- ・ふるさと葛飾盆まつり（4-2-1）
- ・文化芸術創造のまちかつしか推進事業（4-5-1）
- ・多文化共生社会の推進（4-5-2）
- ・公共サインの再構築（5-2-3）
- ・東京2020大会を契機とした人権意識向上への取組（5-2-4）
- ・ポイ捨て防止等環境美化活動（5-4-4）
- ・キャンプ誘致活動・気運醸成事業（ブラインドサッカー日本代表支援、1年前イベント開催など）
- ・文化芸術創造事業（文化芸術体験講座、ワークショップ実施など）

（環境費） 56百万円

- ・緑と花のまちづくり事業（4-3-1）
- ・集積所美化等排出指導（5-4-3）

（衛生費） 11百万円

- ・受動喫煙対策の推進（2-1-4）
- ・食品衛生法一部改正による食品衛生監視指導（食品衛生普及・啓発）

（産業経済費） 14百万円

- ・かつしか観光推進事業（訪日外国人観光PR）（4-1-1）

（都市整備費） 29百万円

- ・花を生かした景観整備（4-3-2）

（教育費） 991百万円

- ・かつしかグローバル人材育成事業（英語によるコミュニケーション能力育成）
(1-5-3)
- ・体力向上のための取組（1-5-7）
- ・高齢者の健康づくりの推進（2-8-1）

- ・障害者スポーツの推進（２－８－２）
- ・区民健康スポーツ参加促進事業（２－８－３）
- ・スポーツ施設の利用しやすい環境整備（２－８－４）
- ・かつしか区民大学事業の推進（２－９－１）
- ・郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修（２－９－２）
- ・クイズ！スター&プラネット２０１９「東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けて」（プラネタリウム番組制作）
- ・アスリート等指導員との交流
- ・東京２０２０大会開催まであと１年！レッツチャレンジスポーツ（ボッチャ、スポーツクライミング等体験教室）
- ・トランポリン交流大会
- ・区民体育大会
- ・葛飾区ゆかりのアスリート応援
- ・地区ロードレース大会
- ・葛飾区・ソウル特別市麻浦区スポーツ友好親善交流
- ・キャンプ誘致活動・気運醸成事業（ブラインドサッカー日本代表支援）